

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎A／アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子					科目ナンバ-	J7209A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについての理解と実践						
授業の概要	始めに、日本語の音声学の基礎的知識を習得することを目指す。日本語の音声の仕組みを学び、アナウンスメントの基礎を通して身につけたことが、日本語での口頭表現、プレゼンテーションの技法の向上につながるようになる。発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの基礎となるニュース原稿を読んで実践に取り組む。その様子をVTR収録し、視聴して講評する形で授業を行う。						
到達目標	原稿を読む技術を理解し、その技術を使った読み方ができる						
授業計画	第1回 講義説明と発声練習 第2回 発声練習 第3回 日本語における各音節の発音 第4回 ガ行鼻濁音 第5回 母音の無声化 第6回 短文練習 第7回 アクセント 第8回 アクセント練習 第9回 ニュース原稿の読み方①(時事・政治) 第10回 ニュース②(時事・経済) 第11回 ニュース③(季節・行事) 第12回 ニュース④(季節・行事) 第13回 ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回 VTR収録 第15回 VTR視聴と講評 (受講者数によって内容が前後したり、変更することがあります。)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	普段から声を出すことを意識的に行うこと。後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、実技30%、ミニレポート(授業の中で提出)40%。 平常点は、毎講義内での演習への積極性を評価対象とする。 遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と課題実技(VTR収録)がなければ、単位は認めない。						
履修上の注意	前半は座学が主になる(演習もある)ので、講義用のノートを準備すること。後半に渡すニュース原稿は最後まで毎回所持のこと。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎B／プレゼンテーションの基礎						
担当教員	永岡 俊哉					科目ナンバ-	J7209B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンス基礎力の確立と、プレゼンテーション技法の基礎の習得						
授業の概要	前期の基礎Aで身に着けたアナウンス技法をさらにブラッシュアップすべく、やや難易度を上げたアナウンスメントの学習を実践的に行う。その後、現場レポート、フリートークなどを通して、自分で考え自分でしゃべる力を養う。最終的には就職活動でも必須となる「効果的な自己PR」のためのプレゼンテーションに取り組む。アナウンサー、リポーター等を目指す学生はもちろん、人前でしゃべることが必要なCAや営業職を目指す学生にも受講してもらいたい。						
到達目標	アナウンサー、リポーター、CA等になるための基礎力をしっかり固めること。また、人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、聞き手にしっかり伝わる話し方ができること。						
授業計画	<p>第1回 発声、滑舌、アクセント等の基礎Aのおさらい、確認 第2回 発声、滑舌、アクセント等の基礎力のブラッシュアップ 第3回 ニュース、スポーツニュース、天気予報等の原稿読みその1 第4回 ニュース、スポーツニュース、天気予報等の原稿読みその2 第5回 ニュース、スポーツニュース、天気予報等の原稿読みその3 第6回 原稿読みその4 カメラ収録（評価対象） 第7回 現場レポート、実況、フリートークその1 第8回 現場レポート、実況、フリートークその2 第9回 現場レポート、実況、フリートークその3 第10回 現場レポート、実況、フリートークその4 カメラ収録（評価対象） 第11回 プレゼンテーションとは何か、自己PRには何を盛り込むか 第12回 プレゼンテーション原稿作成 第13回 プレゼンテーション原稿仕上げ 第14回 プレゼンテーションリハーサル 第15回 プレゼンテーション発表会（評価対象）</p> <p>（受講者数や進み具合によって内容が少し変わったり、前後することがある。）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発声、滑舌、アクセント等の練習は毎日各自でやっておくこと。 レポート原稿、プレゼンテーション原稿作成はかなり時間を要することもあり、事前事後学修によって作成し、カメラ収録の際に提出すること。						
授業方法	演習（実践）形式、各自がアナウンサーになったつもりで、積極的に考え、しゃべること。						
評価基準と評価方法	実技3回のカメラ収録の内容：60%、 レポートとプレゼンテーションの原稿をミニレポートとして評価：40% なお、遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と課題実技（原稿読み、レポート、プレゼンテーション）がなければ、単位は認定しない。						
履修上の注意	ストップウォッチは100円ショップの品でいいので各自用意する事。 アクセント辞典、ICレコーダー（スマホでも可）も持っていることが望ましい。 アナウンサー受験等を考えている学生には別途アドバイス等を行う。						
教科書	テレビ朝日アスクアナウンス教則本（1冊2,500円）購入方法は別途案内する						
参考書	NHKアナウンスセミナー、アクセント辞典						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	J73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	実践的な文章表現能力の養成						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる 4. 日常生活や社会に出て働くに際して実用的な文章を書くことができる 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で小説・エッセイ・学術書などの本を紹介しますのでそれらを参照しつつ、興味のある本や素敵な文章をたくさん見つけて、ノートやパソコンで書き写す試みをしてください。授業では図書館の活用方法や、良い文章に触れるコツにも言及しますので、授業外の学習に生かしてください。準備学習時間の目安は120分です。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組み、受講生の皆さんでの意見交換をしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。テストおよび最終レポート50%、授業内課題30%、授業参加態度20%。						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（ただし、正式な理由があつての欠席は、必ず事前に担当教員と教務課に届け出ること。特にテストの際の欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。）						
教科書	本授業は基本的にパワーポイントを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。また、必要に応じてレジュメを配布します。						
参考書	戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002；[新版]2012（ISBN-10: 4140911948/ISBN-13: 978-4140911945） 他の参考書は授業内で指示します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学および音韻論						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義。						
到達目標	(1) 音聲、音素、文字の関係を知る。 (2) 音聲に構造および単位が存在することを知る。 (4) 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 音聲と音素との違ひ 03: 国際音聲字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解 04: IPAによる音聲転写および作文 05: 「2.2. 子音」の講讀 06: 「2.3. 母音」の講讀 07: モーラと音節 08: 「3. 音節とモーラ」の講讀 09: アクセント、イントネーション、ポウズなど 10: 「4. アクセント」の講讀 11: 「5. イントネーション」から「6. リズム」までの講讀 12: 「7. ポウズ」から「10. 音声の物理と心理」までの講讀 13: 「11. 音素と音素論」の講讀 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟讀 (2) 講讀資料作成 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点 出席点は無く、出缺も取らない。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 樺島 忠夫 (1979) 『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版75)、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	海外日本語教育実習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	海外日本語教育実習						
授業の概要	この授業は、実際に、海外の協定大学の日本語学科で日本語教育の教壇実習を行う授業である。日本語教育は実際に教えるという体験が非常に重要である。まず、実習内容を決め、教案を書き、それにそったアクティビティを準備し、練習を重ねて、実際の教壇に立つ。この経験を通して、クラスコントロールなど現場でしか学べないことを学ぶ。 この授業は8回の学内での授業と1~2週間の海外の教育実習から構成される。 人数制限や実習費用がかかるため、必ず1回目の授業に出席することを条件とする。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 対象者のレベルにあった教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習指導1・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導2・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導3・教案指導の書き方 第5回 実習指導4・教案指導を書く 第6回 実践練習 海外教育実習 第7回 フィードバック 第8回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の為の教材作を積極的に行うこと。 事前に自分の担当箇所の教案とPPTを作成（学習時間120分） 授業の準備とリハーサル（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋教育実習						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 教壇実習40% 教案・実習レポート10%						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者多数場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 ・「日本語教育演習A・B」「日本語教育実習の基礎・応用」を履修している人を優先する。 ・単位認定には実際の教壇実習へ行くことが必須である。 ・海外での教育実習のための費用が必要である。 ・集中講義であるため、すべての授業に出ることを条件とする。 						
教科書	適宜、教師が作成したプリントを使用						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ／華道史						
担当教員	小林 善帆					科目ナンバ-	J72510
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の伝統的文化としての、いけ花を考える						
授業の概要	<p>「いけ花」(華道)は現在につづく日本の芸道である。その起源は、仏に花を供える「供花」にあると言われる。平安時代に既に花を立てた例も確認されるが、「いけ花」の成立は室町後期のことで、後土御門天皇、足利義政、池坊専応・専栄・初代専好の時代にその様式が確立する。安土桃山文化の中に花開いた「いけ花」の美は、江戸時代にさらに洗練され、池坊以外の多くの流派をも生み出し、様式も確立する。近代には海外にも波及し、その文化は現在に継承されることとなる。この「いけ花」の歴史を花の伝書、いけ花関連図書や資料、実作により、多角的な観点から学ぶ。</p>						
到達目標	<p>(1)華道の歴史と理論を、基本的な実技をまじえて学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し教養を深め、国内はもとより海外へ日本文化の紹介を、おこなうことができる。 (2)華道実作を学ぶことから、基本的な花の生け方を理解することができる。</p>						
授業計画	<p>第一回 講義の概要説明 「いけ花」(華道)について 第二回 いけ花史 古代から江戸時代まで 第三回 いけ花史 明治時代から現代まで 第四回 花を生ける基本的な技術について 第五回 実習(1) いけ花実作「盛花」 第六回 実習(2) いけ花実作「投入花」 第七回 実習(3) いけ花実作「自由花」 第八回 花を生ける技術・応用について 第九回 いけ花と連歌 第十回 いけ花と数寄屋空間 第十一回 いけ花関連図書・資料を読む 第十二回 いけ花とジェンダー 第十三回 キリスト教主義女学校といけ花 第十四回 植民地といけ花 第十五回 まとめ 質疑応答</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>講義に興味を持ったことに関して、図書館で調べる。 各自、華道展や日本文化関連の美術館に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。</p>						
授業方法	講義、実習						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点(小テスト・実習などを含む)50%						
履修上の注意	<p>積極的に課外見学や研究会に参加する学生の受講を期待しています。 いけ花実習の花材代は、個人負担です(1回900円程度×3回で、2700円程度必要)。 ※質問は授業の前後で受け付けます。</p>						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	<p>『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4 『一八世紀日本の文化状況と国際環境』笠谷和比古編 思文閣出版 2011年 ISBN978-4-7842-1580-5 『植民地期朝鮮の教育資料』I・II 小林善帆編 国際日本文化研究センター(非売品・図書館所蔵)</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の応用／書道実技（仮名B）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J72450
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	①さまざまな仮名の古典作品の書風や歴史について理解し、説明することができる。 ②仮名の散らし書きを学び、色紙、短冊、扇面などに俳句、和歌を創作することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 古筆の鑑賞—学ぶ古筆を選ぶ 2) 古筆の臨書—練習 3) 古筆の臨書—清書 4) 短冊に書く①—集字について 5) 短冊に書く②—短冊の書式について 6) 短冊に書く③—墨量と濃淡について 7) 色紙に書く①—散らし書きについて（構図を考える） 8) 色紙に書く②—散らし書きについて（墨量を考える） 9) 扇面に書く①—扇面と散らし書きについて（構図を考える） 10) 扇面に書く②—扇面と散らし書きについて（墨量を考える） 11) 中字仮名を書く①（構図を考える） 12) 中字仮名を書く②（墨量を考える） 13) 中字仮名を書く③（清書）、大字仮名を書く①（構図を考える） 14) 大字仮名を書く②（墨量を考える） 15) 大字仮名を書く③（清書） 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な学習を希望する。（学習時間：90分） 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：作品制作への取り組み態度 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認のため毎時の提出作品						
履修上の注意	道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物もなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の基礎／書道実技（仮名A）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J72440
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—基礎編〉						
授業の概要	仮名は、中国から漢字を受容し、日本独自の美意識のもと展開された。仮名の変遷を理解し、主に平安時代の仮名について学習する。単体から連綿、仮名の書き方の基本を学びながら、日本の美について考える。						
到達目標	①仮名の成立について理解し、説明することができる。 ②仮名の書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、仮名の変遷と仮名の書について 2) 仮名の基本練習—単体で書く 1…仮名の字源について、仮名の用筆 3) 2…「いろは」練習 4) 3…「いろは」清書 5) 仮名の基本練習—連綿で書く 1…連綿の種類について、連綿の練習 6) 2…連綿の清書 7) 仮名の基本練習—変体仮名を書く 1…変体仮名の字源について、変体仮名の練習 8) 2…変体仮名の練習と清書 9) 仮名の古典作品（古筆）について、古筆の臨書—「高野切古今和歌集」練習 10) 古筆の臨書—「高野切古今和歌集」清書 11) 古筆の臨書—「三色紙」練習 12) 古筆の臨書—「三色紙」清書 13) 仮名作品の創作①—構図と墨量を考える 14) 仮名作品の創作②—料紙に清書 15) 仮名作品の創作③—作品に合う印の制作と押印						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：作品制作への取り組み態度 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認のため毎時の提出作品						
履修上の注意	以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾 （書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する） 欠席や道具を忘れるなどすれば、提出物もなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	手本やプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文講読／漢文を読むA						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバ-	J72230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を身につけ、漢詩文を鑑賞する						
授業の概要	日本文学は中国文学からさまざまな影響を受けている。日本文学を読み解く上でも欠かせない漢文学の歴史と日本文学の関わりについて解説する。また、作品を読みながら漢詩文の読解に必要な基礎知識を習得できるようにする。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる (2) 作品の内容を理解できる (3) 日本文学と漢文学の影響関係が説明できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 基本構文 第4回 漢文講読の基礎知識 (3) 再読文字 第5回 漢文訓読の基礎知識 (4) 助字と助詞 第6回 漢文訓読の基礎知識 (5) 助字と助動詞 第7回 作品読解 (1) 故事成語① 螢窗雪案 第8回 作品読解 (2) 故事成語② 推敲 第9回 作品読解 (3) 漢詩① 漢詩の基礎知識 第10回 作品読解 (4) 漢詩② 古体詩 (古詩十九首) 第11回 作品読解 (5) 漢詩③ 唐詩と日本文学 第12回 作品読解 (6) 漢文① 桃花源記 (訓読) 第13回 作品読解 (7) 漢文② 桃花源記 (読解) 第14回 作品読解 (8) 漢文③ 桃花源記 (作品解説) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	次回範囲の作品を読み、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておくこと						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 50% 筆記試験 50%						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること						
教科書	『漢文入門』 榊原邦彦、伊藤一重ほか編 和泉書院 ISBN9784870885196						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	漢文入門						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバ-	J71530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を身につける						
授業の概要	日本文学は中国文学からさまざまな影響を受けている。日本文学を読み解く上でも欠かせない漢文学の歴史と日本文学の関わりについて解説する。また、作品を読みながら漢詩文の読解に必要な基礎知識を習得できるようにする。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる (2) 中学・高校でよく取り上げられる作品を自力で理解できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 基本構文 第4回 漢文訓読の基礎知識 (3) 再読文字 第5回 漢文訓読の基礎知識 (4) 助字と助詞 第6回 漢文訓読の基礎知識 (5) 助字と助動詞 第7回 作品読解 (1) 故事成語① 守株 第8回 作品読解 (2) 故事成語② 矛盾 第9回 作品読解 (3) 故事成語③ 漱石枕流 第10回 作品読解 (4) 漢詩① 漢詩の基礎知識 第11回 作品読解 (5) 漢詩② 春暁・竹里館 第12回 作品読解 (6) 漢詩③ 月下独酌 第13回 作品読解 (7) 論語① 学問 (学而) 第14回 作品読解 (8) 論語② 教育・徳 (為政篇) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	次回範囲の作品を読み、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておくこと 訓読の基礎はしっかり復習し、身につけること						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 50% 筆記試験 50%						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること 2年次以降に「漢文講読」を引き続き履修することが望ましい						
教科書	『漢文入門』 榊原邦彦、伊藤一重ほか篇 和泉書院 ISBN9784870885196						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	外国語としての日本語と日本文化A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7154A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の「文化」						
授業の概要	留学生と日本人を対象とした合同クラスで、日本の文化について考えます。日々の生活の中に見られるさまざまな日本語や生活習慣の中にも「文化」はひそんでいます。日本人の考え方や習慣などについて、改めて考えながら、いろいろな事例を自分でも探し出し、理解を深めていきます。レポートにまとめたり、発表したりする機会も設けます。						
到達目標	日本語の語彙や日常生活習慣の中などに存在するさまざまな日本の文化を理解した上で、自分でもそれについて考えたり調べたりできるようになる。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 「自分」を表す呼び方 第3回 「さくら」がつく言葉 第4回 トイレの呼び方とバリエーション 第5回 「すみません」の使い方 第6回 まとめ(1) 第7回 湿気や水分の多いことを表す表現 第8回 同音異義語「あつい」 第9回 日本の衣食住(1) 第10回 日本の衣食住(2) 第11回 まとめ(2) 第12回 相手をほめる表現 第13回 日本語の呼びかけの人称代名詞 第14回 日本の花鳥風月 第15回 発表						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各テーマについて、図書館やウェブ上の資料などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	各テーマについて講義を聞き、その後、留学生と日本人学生の協同作業でパソコン等を用いてそれらの事例を探し出す。成果をまとめたり、発表したりする機会も設ける。						
評価基準と評価方法	平常点(発表や課題の提出等を含む)(50%) 期末発表(20%) 期末レポート(30%)						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 						
教科書	適宜ハンドアウトを配布する						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	外国語としての日本語と日本文化B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7154B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の「文化」						
授業の概要	留学生と日本人を対象とした合同クラスで、日本の文化について考えます。日々の生活の中に見られるさまざまな日本語や生活習慣の中にも「文化」はひそんでいます。日本人の考え方や習慣などについて、改めて考えながら、いろいろな事例を自分でも探し出し、理解を深めていきます。レポートにまとめたり、発表したりする機会も設けます。						
到達目標	日本語の語彙や日常生活習慣の中などに存在するさまざまな日本の文化を理解した上で、自分でもそれについて考えたり調べたりできるようになる。						
授業計画	第1回 「太っている」の言い方とイメージ 第2回 日本の温泉 第3回 「年齢」の言い方 第4回 相手の妻をいうときと自分の妻をいうとき 第5回 まとめ(1) 第6回 クリスマスとお正月 第7回 大掃除と「汚れている」様子を表す言葉 第8回 お正月 第9回 「初」がつく色々な言葉 第10回 まとめ(2) 第11回 節分と「鬼」がつく言葉 第12回 忌み言葉 第13回 別れの言葉 第14回 お返し文化 第15回 発表						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各テーマについて、図書館やウェブ上の資料などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	各テーマについて講義を聞き、その後、留学生と日本人学生の協同作業でパソコン等を用いてそれらの事例を探し出す。成果をまとめたり、発表したりする機会も設ける。						
評価基準と評価方法	平常点(発表や課題の提出等を含む)(50%) 期末発表(20%) 期末レポート(30%)						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 						
教科書	適宜ハンドアウトを配布する						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。 ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。 						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う 1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う 2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く 1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く 2-資料を集める- 第14回 レポートを書く 3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く 4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：90分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式（ミニ発表やグループワークの可能性があり、これらの活動も評価対象になる）						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。（授業中にまとめの小テストを行う場合もある。）						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。 ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。 						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う 1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う 2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く 1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く 2-資料を集める- 第14回 レポートを書く 3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く 4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：90分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式（ミニ発表やグループワークの可能性があり、これらの活動も評価対象になる）						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。（授業中にまとめの小テストを行う場合もある。）						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J73360
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの類を含む)を中心に、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しむことができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 浅田次郎の世界 第3回 『おもかげ』のこと 第4回 ある日どこかで 第5回 タイタニック 第6回 過去と未来 第7回 オーロラの彼方へ 第8回 この胸いっぱいのお愛を 第9回 タイムパラドックス 第10回 時空を超える旅 第11回 メトロに乗って 第12回 ビューアーな愛の物語 第13回 フォーエバー・ヤング 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観ること。						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	浅田次郎『おもかげ』毎日新聞出版 ISBN:978-4-620-10832-2						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J73370
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	織田作之助研究						
授業の概要	織田作之助の作品のうち、特に『夫婦善哉』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。						
到達目標	影印（写真版）を活用し、執筆の現場を追体験することで、『夫婦善哉』正統の魅力を再発見できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 織田作之助のこと 第3回 大阪の文学 第4回 ドラマ化の問題 第5回 映画化の問題 第6回 夫婦善哉の正編 第7回 正編 発展 第8回 正編 展開 第9回 続編の発見 第10回 大分の生活 第11回 続編 発展 第12回 続編 展開 第13回 夫婦善哉の結末 第14回 とりあえずのまとめと筆記試験 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	織田作之助『夫婦善哉 完全版』雄松堂書店 ISBN:978-4-8419-0467-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学講読／近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講読形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学の基礎／近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講読形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	行書法／書道実技（行書）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71430
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	行書の特徴を学習し、それを基に行書の用筆法を習得する。 行書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した行書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。 行書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） 2、王羲之『蘭亭序』について①～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 四文字臨書 3、王羲之『蘭亭序』について②～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、王羲之『蘭亭序』について③～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、王羲之『蘭亭序』について④～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、王羲之『蘭亭序』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、王羲之『蘭亭序』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ①～歴史的背景の理解～ 9、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ②～四文字臨書～ 10、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ③～六文字臨書～ 11、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ④～半切～ 12、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ⑤～半切 仕上げ～ 13、創作① 創作について 14、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 15、創作③ 半切作品の清書						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。 1時間						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	書道の用意（筆、半紙、墨汁、新聞紙等）は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 書展を行う可能性があるため、それに出品する作品を制作してもらうことがある。						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—熨斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技と理論の予習と復習 1時間						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	<p>書道実技（硬筆）1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆）2限は硬筆書写検定2級受験レベル</p> <p>それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。</p> <p>毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。</p>						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—熨斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技と理論の予習と復習 1時間						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	<p>書道実技（硬筆） 1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆） 2限は硬筆書写検定2級受験レベル</p> <p>それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。</p> <p>毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。</p>						
教科書	『硬筆書写検定・2級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA						
担当教員	三木 麻子					科目ナンバ-	J73340
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌の享受のあり方を学ぶ。						
授業の概要	王朝人の生活のなかにあった和歌は、折にふれ人々に楽しまれ、次の創作への原動力ともなるものであった。人々の前に披露され、鑑賞される和歌のあり方の諸相を学ぶ。						
到達目標	和歌について理解を深めるとともに、人々が和歌をどのように詠み、享受したのか、和歌のさまざまな披露のあり方を理解し、王朝人と同じように和歌の世界を楽しむことができる。						
授業計画	第1回 古典和歌とは 第2回 歌集の形態－勅撰集と私家集 第3回 私家集の作られ方－『元良親王集』 第4回 音楽とともにある和歌－東遊び・催馬楽 第5回 絵とともにある和歌－屏風歌・歌仙絵 第6回 『古今和歌集』の屏風歌 第7回 伊勢・貴之の屏風歌 第8回 競い合う和歌－歌合 第9回 初期歌合の和歌 第10回 新古今時代の歌合 第11回 歌物語の和歌－歌は徳 第12回 散文の中に生きる和歌 第13回 定数歌の世界 第14回 『百人一首』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回テーマについて指示した内容を予習すること（学習時間：90分） 授業後学習：配付したプリントの作品例が理解できるよう復習を行うこと（学習時間：90分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（70%） 平常点（30%）：各回提出するコメント（講義内容についての感想・質問）により評価する。						
履修上の注意	1. 毎回、プリントを配付するので、遅刻、欠席をしないこと（欠席の場合は、翌週授業時に再配付）。 2. 3分の2以上の出席がなければ、試験を受ける資格はないものとする。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD						
担当教員	大坪 亮介					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『太平記』をめぐる文学史						
授業の概要	南北朝動乱を描いた軍記物語『太平記』は、現在でこそあまり馴染みの作品とはいえないかもしれないが、近代までは広く親しまれていた古典である。本授業では、中世の代表的な文学作品である『太平記』に光を当て、その概要と特徴、享受の様相を紹介し、『太平記』をめぐる文学史をたどっていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世文学の代表的作品である『太平記』について、日本文学を専門的に学ぶ者として必要な知識を身につける。 ・古典作品がいかに読み継がれ、新たな作品生成原動力となったか、その様相を知ることができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『太平記』の成立 第3回 『太平記』第一部の世界 第4回 『太平記』第二部の世界 第5回 『太平記』第三部前半の世界 第6回 『太平記』第三部後半の世界 第7回 中世の『太平記』享受 第8回 後期軍記と『太平記』 第9回 近世の『太平記』講釈 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 第11回 太平記物 第12回 近世の楠木正成像 第13回 近代の楠木正成像 第14回 現代の楠木正成像 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・下記のように古典作品を原文で読むことがメインとなるので、古典文法について授業前に復習しておくこと。 ・授業後はプリントをよく読み返し、その日の内容を定着させること。シラバスや授業で紹介した参考文献を読むこと。 						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点30% 期末試験70% 毎回リアクションペーパーを提出してもらうが、その内容は平常点に反映される。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の1/3以上欠席した場合、単位認定の対象としない。 ・絵画資料や映像資料も補助的に利用するが、授業のメインは古典テキスト原文の読解である。そのことを理解した上で受講すること。 						
教科書	プリント配布。						
参考書	市沢哲編『太平記を読む』吉川弘文館、2008年 兵藤裕己『太平記〈読み〉の可能性』講談社学術文庫、2009年（初版は1995年） その他、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	日本文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように受け入れられ享受されて来たのか考えたい。						
到達目標	古典文学史について理解し、その流れを説明できる。 古典文学作品の名称や作者名について説明できる。						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化（浮世草子） 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	古典文学史について理解できるよう、教科書を読む。 古典文学作品の名称や作者名について理解できるよう復習する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みの意欲など平常の姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努める。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学の基礎／古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学読解の基礎と『竹取物語』の講読						
授業の概要	<p>平安時代前期に成立した、現存最古の物語『竹取物語』を読む。 『竹取物語』は「かぐや姫」の物語として名高いが、羽衣伝説や竹取の翁伝説を中心に求婚難題説話や地名起源伝説を付加して構成されている伝奇物語である。また、五人の貴公子の失敗談には、貴族社会に対する風刺が込められていて興味深い。本授業では、このような事柄にも注目しながら、一人一人が担当する箇所を調べて来て発表する講読形式で読み進める。また、古文読解の能力を高めるよう、古典語彙や文法にも注意して講読して行く。</p>						
到達目標	『竹取物語』のだいたいの口語訳ができる。 文語文法のおおよそが理解できる。						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学についての概説 第2回 『竹取物語』についての概説 第3回 『竹取物語』の諸本（本文系統）についての講義 第4回 『竹取物語』の冒頭文についての講義 第5回 五人の貴公子の求婚談についての講読 第6回 「仏の御石の鉢」についての講読 第7回 「蓬萊の玉の枝」前半についての講読 第8回 「蓬萊の玉の枝」後半についての講読 第9回 「火鼠の皮衣」についての講読 第10回 「龍の頸の珠」についての講読 第11回 「燕の子安貝」についての講読 第12回 「かぐや姫の昇天」についての講読 第13回 「不死の薬」と「富士の山」についての講読 第14回 まとめと試験 第15回 『竹取物語』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文語文法などの基礎的な知識を事前に学習しておく。 古文読解の力を養うよう復習する。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）60% 担当発表 30%、 平常点（質疑応答など）10%						
履修上の注意	各自に発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	竹取物語 松尾聡校注 笠間書院						
参考書	新編日本古典文学全集『竹取物語』片桐洋一（小学館） 新日本古典文学大系『竹取物語』堀内秀晃（岩波書店） 『竹取物語全評釈』（本文評釈篇）上坂信男（右文書院）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古文講読／古典文学を読むB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ	J72200
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講読を通しての書誌学および國文法理解						
授業の概要	各受講者が演習発表で取り上げる古典作品をひとつ選んだのち、まづは、古典に関する書誌学的知識を身に付ける。次いで、影印本の翻刻、古典日本語の直譯、難解語句に対する注釋を行なひ、講讀資料にまとめ上げる。そして、演習発表を通して、古典文法の基礎を習得する。更には、話す力および聞く力の向上を圖って、発表擔當者と受講者との質疑應答も行なふ。						
到達目標	(1) 古典に関する書誌学知識を得る。 (2) (辭書の助けを借りるなどすれば) 崩し字を読むことができる。 (3) 國文法の基礎を理解し、古典講読に役立てることができる。 (4) 學説が必ずしも定まっておらずであることを知る。 (5) 発表擔當者と受講者との質疑應答を通して、話す力と聞く力を身に付ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計畫、到達目標の説明 02: 現行古典テキストと影印本との比較 03: 影印本の翻刻 04: 古典日本語の直譯とその難しさ 05: 古典講読 (1): 書誌情報の整理 06: 古典講読 (2): 翻刻の基本方針 07: 古典講読 (3): 崩し字をどう起こすか 08: 古典講読 (4): 漢字の崩し字 09: 古典講読 (5): 古典日本語の名詞 10: 古典講読 (6): 古典日本語の動詞 11: 古典講読 (7): 古典日本語の統語 12: 古典講読 (8): 直譯と意譯との違ひ 13: 古典講読 (9): 原文をどの程度直譯するか 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 翻刻 (2) 講讀資料作成 (3) 論文讀解						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	演習発表: 40% 質疑應答: 20% 試験: 40% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	飯倉 洋一 (編)『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習アプリKuLAの使い方』、笠間書院						
参考書	小松 茂美 (1968)『かな—その成立と変遷—』(岩波新書・青版679)、岩波書店 児玉 幸多 (編) (1970) [2013]『くずし字解説辞典 普及版』、東京堂出版 樺島 忠夫 (1979)『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版75)、岩波書店 児玉 幸多 (編) (1981) [2011]『くずし字用例辞典 普及版』、東京堂出版						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	茶道文化を学ぶ／茶道史						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ	J72500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国から受け入れた日本の「喫茶」に関する歴史の変遷と、茶道という芸能の中で育まれてきた美意識や精神性の展開を学ぶ。						
授業の概要	今日、世界中ではさまざまな「お茶」が飲まれている。中でも日本は「茶を喫すること」を特別な芸能にまで昇華させ、一定の美意識の中で、喫茶空間を整えながら、様々な喫茶の道具を選定してきた。特に禅宗との関わりの中で「喫茶」に関する精神性をとぎすませながら、茶道という多面的な文化にまで展開してきた。中国との関係を踏まえながら、奈良期から始まる日本の喫茶の歴史の変遷を学び、使用する道具や喫茶空間のあり方などから、喫茶により深化した美意識の変化と精神性を理解し、茶道に代表される日本の伝統文化の特質を学習する。						
到達目標	(1)日本における茶道文化の歴史の変遷と美意識・精神性の展開とを学ぶことで、日本の「茶道」に代表される伝統文化のあり方を理解することができる。 (2)広い視野に立ちながら、様々な機会において、日本の伝統的な文化事象の特徴を「茶道」を通じて紹介することができるようになる。						
授業計画	第1回 インタロダクション、「お茶」とは何か 第2回 中国唐代の「茶」について 一陸羽と盧全を中心に一 第3回 奈良・平安期の「茶」について 一嵯峨天皇とその周辺一 第4回 中国宋代の「茶」と鎌倉期の「茶」について 一明菴栄西とその周辺一 第5回 南北朝・室町期の「茶」について 一足利義政と東山御物一 第6回 「喫茶」の成立と茶の湯道具の概要 第7回 桃山期の「茶の湯」について 一千利休の「茶」を中心に一 第8回 桃山末～江戸初期の「茶の湯」について 一藪内剣仲・古田織部・小堀遠州・片桐石州の「茶」について一 第9回 江戸期の「茶の湯」 一千宗旦と三千家を中心に一 第10回 中国明清時代の「茶」と日本における「煎茶」の始まり 第11回 煎茶の特質と煎茶道具の概要 第12回 江戸中・後期の「煎茶」 一売茶翁高遊外から宗匠茶の成立まで一 第13回 幕末～大正期の「煎茶」 一茗謙図録の時代一 第14回 大正～昭和期の「茶の湯」 一近代の数寄者たち一 第15回 茶道文化の今日的課題と試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回の授業テーマの内容を図書館にある参考書などによって予習しておく。(学習時間:30～60分) なお、近隣の博物館施設で開催される「茶の湯」や「煎茶」に関する展覧会を鑑賞したり、様々な茶会にさそわれる機会があつて積極的に参加したり、お茶に関する新聞記事やテレビのニュース・特別番組などに接した時には、興味のある内容や疑問点ピックアップして、授業の終わりなどに質問をすることなども、茶道文化を理解する上では特に重要である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づいた講義形式。 ただし、時間的・人数的に可能であれば、グループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、コメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%：授業中の質疑応答やアクションペーパーなどによるコメントなどで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問やコメントは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。期末試験の講評は、松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。 レポートとして、受講生が近隣の博物館施設の茶に関する展覧会を見学してまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は入館料、交通費等は受講生の実費負担となること。						
教科書	なし。授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	『淡交社50周年記念出版 茶道学大系』(全11巻) 淡交社 2000年ほか ISBN:978-4-473-01661-4 ほか 『熊倉功夫著作集』(全7巻) 思文閣出版 2016-2017年 ISBN:978-4-7842-1852-3 ほか 『茶道具の世界』(全15巻) 淡交社 1999年ほか ISBN-13:978-4473017017 ほか 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館 編 淡交社 2002年 ISBN-13:978-4473018625 『煎茶道具名品集』小川後楽 著 淡交社 2003年 ISBN-13:978-4473031044						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73260
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。						
授業計画	<p>第1回 方言を調査すること 第2回 先行調査・研究の検討① 方言概説—音声・音韻— 第3回 先行調査・研究の検討② 方言概説—アクセント— 第4回 先行調査・研究の検討③ 方言概説—語彙・文法・表現法— 第5回 先行調査・研究の検討④ 前回の調査結果の検討—アクセント— 第6回 先行調査・研究の検討⑤ 前回の調査結果の検討—活用— 第7回 先行調査・研究の検討⑥ 前回の調査結果の検討—接続助詞、終助詞— 第8回 調査の準備・調査票の作成① 調査項目の設定 第9回 調査の準備・調査票の作成② 質問方法の選定 第10回 調査の準備・調査票の作成③ 質問内容の選定 第11回 模擬調査 第12回 調査票の改良 第13回 調査票の説明（前半グループ） 第14回 調査票の説明（後半グループ） 第15回 夏休み調査に向けて</p> <p>※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	調査票の作成には、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。調査目的に合わせて作成し、授業時に検討。検討結果を持ち帰り、調査票の改良に取り組む。（学習時間：授業前・後各90分）このサイクルでより良いものを目指してほしい。						
授業方法	講義、及び演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、発表20%、レポート（調査票含む）40%						
履修上の注意	8月初旬に2泊の方言調査を実施するので、参加することが望ましい（要宿泊費・交通費）。※朝来市近辺の予定調査に参加できない者、調査結果のまとめにかかわる共同作業に責任を負わない者は、履修を控えること。社会言語学演習Bを合わせて履修することが望ましい。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	調査した結果から、データの整理と分析を経て、発表できるようになる。						
授業計画	※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の管理方法 第3回 表計算ソフトでの集計方法 第4回 データ入力 第5回 入力データの見直し 第6回 調査結果の分析方法 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 第8回 データ分析 第9回 データ分析（前回の続き） 第10回 発表内容と方法の検討 第11回 中間発表 第12回 発表内容と方法の見直し 第13回 最終発表（前半グループ） 第14回 最終発表（後半グループ） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業計画前半のデータ入力やデータの分析は授業時間外での作業が必須となる。（学習時間：授業前後各90分）また、授業計画後半の結果発表に際しては、発表内容の検討を授業時間内で行い、それに従って授業外でも資料の作成を行う。（学習時間：授業前後各90分）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、中間発表20%、最終発表・レポート40%						
履修上の注意	社会言語学演習Aを履修した学生を対象とする。調査の集計には、共同作業を伴う。共同作業に責任を負わない者の履修は、控えること。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J73470
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得する。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。						
到達目標	①書を総合的に理解できる。 ②書について自分自身の言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について 2) 書とは何か（書写と書道、作品について） 3) 書道史について（中国と日本の書の歴史） 4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について 5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む 6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について 7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前） 8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後） 9) 書の美について（書の美学、美的価値） 10) 作品の鑑賞と制作について 11) 文房四宝について（ゲストスピーカーによる講義） 12) 表具・作品の装丁について 13) 書と教育について 14) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸） 15) まとめ、質疑応答、確認テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。（学習時間：90分） 紹介した展覧会の鑑賞。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%：授業態度 テスト40%：到達目標①の到達度確認 レポート40%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 受講者の人数によっては、文房四宝や表具などの体験型授業を行うことがある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目																																				
科目名	書道実技（作品制作）																																				
担当教員	丸山果織・真鍋昌生・石井みや美					科目ナンバ-	J73520																														
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	1.0																														
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。																																				
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切にすることは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。また、書と関わりの大きい水墨画や、書を引き立てる彩色についても学ぶ。さらに、作品にふさわしい印を制作する。																																				
到達目標	①自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にすることができる。 ②①をもとに制作を進めることができる。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1) 作品制作とは何か</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>3) 作品制作A（集字、草稿）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>4) 作品制作A（助言、指導）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>5) 作品A発表、助言、指導</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）</td><td>【真鍋】</td></tr> <tr><td>7) 書作品と印②（押印、補刀）</td><td>【真鍋】</td></tr> <tr><td>8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）</td><td>【石井】</td></tr> <tr><td>9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）</td><td>【石井】</td></tr> <tr><td>10) 作品制作B発表、助言・指導</td><td>【石井】</td></tr> <tr><td>11) 作品制作C（集字・草稿）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>12) 作品制作C（助言・指導）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>13) 作品制作C（展開）</td><td>【丸山】</td></tr> <tr><td>14) 作品制作C（印の制作）</td><td>【真鍋】</td></tr> <tr><td>15) 作品C発表、助言、指導、まとめ</td><td>【丸山】</td></tr> </table>							1) 作品制作とは何か	【丸山】	2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）	【丸山】	3) 作品制作A（集字、草稿）	【丸山】	4) 作品制作A（助言、指導）	【丸山】	5) 作品A発表、助言、指導	【丸山】	6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）	【真鍋】	7) 書作品と印②（押印、補刀）	【真鍋】	8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）	【石井】	9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）	【石井】	10) 作品制作B発表、助言・指導	【石井】	11) 作品制作C（集字・草稿）	【丸山】	12) 作品制作C（助言・指導）	【丸山】	13) 作品制作C（展開）	【丸山】	14) 作品制作C（印の制作）	【真鍋】	15) 作品C発表、助言、指導、まとめ	【丸山】
1) 作品制作とは何か	【丸山】																																				
2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）	【丸山】																																				
3) 作品制作A（集字、草稿）	【丸山】																																				
4) 作品制作A（助言、指導）	【丸山】																																				
5) 作品A発表、助言、指導	【丸山】																																				
6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）	【真鍋】																																				
7) 書作品と印②（押印、補刀）	【真鍋】																																				
8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）	【石井】																																				
9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）	【石井】																																				
10) 作品制作B発表、助言・指導	【石井】																																				
11) 作品制作C（集字・草稿）	【丸山】																																				
12) 作品制作C（助言・指導）	【丸山】																																				
13) 作品制作C（展開）	【丸山】																																				
14) 作品制作C（印の制作）	【真鍋】																																				
15) 作品C発表、助言、指導、まとめ	【丸山】																																				
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも積極的に取り組むことを望む。（学習時間：90分） 紹介した展覧会の鑑賞。																																				
授業方法	実技、指導解説																																				
評価基準と評価方法	平常点30%：作品制作の取り組み姿勢 制作ノート20%：到達目標①の到達度確認 作品50%：到達目標②の到達度確認																																				
履修上の注意	欠席するとその時間分の進行が遅れるので注意すること。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 印の制作や水墨画・彩色の授業は前後する可能性がある。																																				
教科書	適宜プリントを配布する。																																				
参考書																																					

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展示会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展示会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	草書法／書道実技（草書）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J72460
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	草書の基本用筆を理解・習得した上で、草書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	草書の特徴を学習し、それを基に草書の用筆法を習得する。 草書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した草書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	草書の基本的な知識と技法を習得する。 草書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による草書の基礎を習得する（草書の用筆法を習得し、草書の特徴を理解する。） 2、『書譜』について①～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ 四文字臨書 3、『書譜』について②～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、『書譜』について③～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、『書譜』について④～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、『書譜』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、『書譜』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、『十七帖』について①～王羲之の草書を学ぶ～ 半紙臨書 9、『十七帖』について②～王羲之の草書を学ぶ～ 半切臨書 10、『中秋帖』について①～全紙作品のまとめ方～ 11、『中秋帖』について②～全紙作品のまとめ方 仕上げ～ 12、創作① 創作について 13、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 14、創作③ 創作（草稿） 15、創作④ 創作（清書） 仕上げ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。 1時間						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	書道の用意（筆、半紙、墨汁、新聞紙等）は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 書展を行う可能性があるため、それに出品する作品を制作してもらうことがある。						
教科書	書譜（中国法書選No. 38）孫過庭 二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	<p>日本語教育に関係するテーマで卒業論文を書くことを目指します。「敬語について」「子供の言語習得について」のような漠然としたテーマはできるだけ早い段階で興味の焦点を絞っておくことが大切です。まず、採取した用例をどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くための技法を身につけながら、各自の卒業論文のテーマについて発表を行います。個別の指導はそれぞれ時間をとって行います。</p> <p><日本語教育に関係するテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育教材研究 ・日本語の文法や語彙についての分析 ・日本語の誤用分析 ・話し言葉の機能分析（敬語・謝罪・褒めetc） ・非言語行動について（ボディランゲージetc） ・年少者のための日本語教育 ・日本語学習者の観察やケーススタディ 						
到達目標	各自、テーマを見つけて卒業論文を書きあげることができる。						
授業計画	<p><前期></p> <p>第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 各自のテーマについて個別指導5 第14回 各自のテーマについて個別指導6 第15回 前期のまとめ</p> <p><後期></p> <p>第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 卒業論文発表会 第29回 卒業論文発表会 第30回 論述口頭試問</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 （学習時間120分） それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。</p>						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						

評価基準と評価方法	卒業論文70% 口頭試問30%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。・欠席するときは必ず事前に連絡すること。・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。・卒業論文の細かい規定については授業中に説明する。
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	論理的思考力の養成と科学的分析方法の学習						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の演習。						
到達目標	(1) 歴史に目を通しつゝ、新規の案を生み出すことができる。 (2) 他者の提案の美点および改善点を見附けることができる。 (3) 學説が必ずしも定めてゐないことを知る。						
授業計画	<p>【前期】</p> 01: 授業概要の説明 02: 卒業研究の指導 (1) 03: 卒業研究の指導 (2) 04: 卒業研究の指導 (3) 05: 卒業研究の指導 (4) 06: 卒業研究の指導 (5) 07: 卒業研究の指導 (6) 08: 卒業研究の指導 (7) 09: 卒業研究の指導 (8) 10: 卒業研究の指導 (9) 11: 卒業研究の指導 (10) 12: 卒業研究の指導 (11) 13: 卒業研究の指導 (12) 14: 中間発表會 (1) 15: 中間発表會 (2) <p>【後期】</p> 01: 進捗状況の報告 02: 卒業研究の指導 (1) 03: 卒業研究の指導 (2) 04: 卒業研究の指導 (3) 05: 卒業研究の指導 (4) 06: 卒業研究の指導 (5) 07: 卒業研究の指導 (6) 08: 卒業研究の指導 (7) 09: 卒業研究の指導 (8) 10: 卒業研究の指導 (9) 11: 卒業研究の指導 (10) 12: 卒業研究の指導 (11) 13: 卒業研究の指導 (12) 14: 卒業論文発表會 (1) 15: 卒業論文発表會 (2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 論文讀解 (2) 報告資料作成						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	卒業研究: 80% 質疑應答: 20% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	學外實習無し。 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。						

教科書	石黒 圭 (2012) 『論文・レポートの基本』、日本実業出版社
参考書	無し。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	<p>(前期)</p> <p>第1回 卒業論文とは</p> <p>第2回 各自の研究テーマの発表と検討①</p> <p>第3回 各自の研究テーマの発表と検討②</p> <p>第4回 各自の研究テーマの発表と検討③</p> <p>第5回 先行研究の調べ方</p> <p>第6回 データ収集の方法</p> <p>第7回 テーマ決定</p> <p>第8回 研究計画の提出と検討</p> <p>第9回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第10回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第11回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第12回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第13回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第14回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討</p> <p>(後期)</p> <p>第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告</p> <p>第17回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む)</p> <p>第19回 中間発表会②</p> <p>第20回 中間発表会に対する指導</p> <p>第21回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第22回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第23回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第24回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第25回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第26回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定</p> <p>第28回 提出直前相談</p> <p>第29回 卒論発表会①</p> <p>第30回 卒論発表会②</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。(学習時間:授業前後各90分)						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%						
履修上の注意	より良いものにするための努力を怠らないこと。						

教科書	
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	古典文学および日本文化の研究						
授業の概要	和歌や物語などの古典文学や日本文化を対象に卒論を執筆しようとする学生に対して、助言、指導をおこなう。参考文献や資料などについて具体的にアドバイスするが、自分自身でも関係する論文や資料を探索し、それらを読んで、積極的に調査・研究を進める姿勢を持って、論文を完成する。						
到達目標	古典文学や日本文化を対象に研究、考察し、その成果を卒業論文にまとめることができる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 卒業研究についての概説</p> <p>第2回 予定している研究テーマについての発表</p> <p>第3回 研究テーマについての検討①</p> <p>第4回 研究テーマについての検討②</p> <p>第5回 研究テーマに関する書籍、関係論文の探索</p> <p>第6回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価①</p> <p>第7回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価②</p> <p>第8回 研究の進捗状況の報告①</p> <p>第9回 研究の進捗状況の報告②</p> <p>第10回 研究報告とそれに対する指導①</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導②</p> <p>第12回 論文の書き方の指導①</p> <p>第13回 論文の書き方の指導②</p> <p>第14回 進捗状況の報告</p> <p>第15回 夏休みの課題の申告</p> <p>後期</p> <p>第1回 夏休み期間の進捗状況の報告</p> <p>第2回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第3回 論文の題目・目次（構成）の報告</p> <p>第4回 卒業論文の中間発表会①</p> <p>第5回 卒業論文の中間発表会②</p> <p>第6回 中間発表会に対する指導</p> <p>第7回 研究の方向性の確認</p> <p>第8回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第9回 進捗状況の報告発表</p> <p>第10回 論文の題目・目次（構成）の確認</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第12回 研究のまとめ①</p> <p>第13回 研究のまとめ②</p> <p>第14回 口頭試問</p> <p>第15回 卒業論文の成果報告会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマ周辺の論文を読み、各自のテーマについての調査、研究を進める。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と討論 研究内容や進め方についてのアドバイスや指導						
評価基準と評価方法	研究成果をまとめた論文（口頭試問を含む） 90% 卒業研究に対する取り組みや成果報告の口頭発表 10%						
履修上の注意	年間を通して、着実に作業し、研究して、最後に良い成果がまとめられるよう努力すること。						

教科書	特になし。
参考書	授業中に提示する。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本の造形芸術についての研究						
授業の概要	書、絵画、工芸など日本の造形芸術を中心とした卒業論文を執筆する学生に対して、助言、指導を行う。						
到達目標	日本の造形芸術を対象に、自分自身で研究、考察し、その成果を卒業論文としてまとめる。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 卒業研究について 2) 予定している研究テーマについての発表 3) 研究テーマについての検討① 4) 研究テーマについての検討② 5) 研究テーマに関する先行研究 6) 研究テーマに関する書籍、資料の探索 7) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価① 8) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価② 9) 研究報告・指導① 10) 研究報告・指導② 11) 論文の書き方について① 12) 論文の書き方について② 13) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導① 14) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導② 15) 夏期休暇の課題発表 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究報告・質疑応答・指導① 2) 研究報告・質疑応答・指導② 3) 論文の題目・目次（構成）の報告・指導 4) 中間発表・指導① 5) 中間発表・指導② 6) 中間発表・指導③ 7) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認① 8) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認② 9) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認③ 10) 文章表現、記述に関する確認 11) 参考文献の表記、引用に関する確認 12) 研究報告・質疑応答① 13) 研究報告・質疑応答② 14) 研究報告・質疑応答③ 15) 卒業論文の成果報告 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	提示された資料は必ず調査し、そこから新たな資料を探索することを望む。（学習時間：180分）						
授業方法	講義、発表、個別指導						
評価基準と評価方法	論文審査と口頭試問（100%）						
履修上の注意	常に自身の関心事と向き合い、できるだけ早く卒業論文のテーマを決め、資料の収集と分析に取り組むことを望む。 他者の研究発表に対しても関心をもち、積極的に質問を行い、自らの関心事と照らし合わせて考えることを望む。 書道展を予定しており、卒業論文を展示する。						

教科書	
参考書	個別に提示する

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しい」とされることばづかいを知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知り、規範主義的なものの見方だけではなく、記述主義的な考え方も身につけてほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。 ・日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、正誤判断（ふさわしいか否か）とその理由説明ができるようになる。 ・「正しいことばづかい」についての自分の考えを述べられるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス/敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語（謙譲語Ⅰ） 第3回 敬語の種類とはたらき③ 丁寧語（謙譲語Ⅱ）・丁寧語 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語、二重敬語 第5回 間違いやすい敬語 第6回 「丁寧に話す」とは 第7回 ここまでのまとめ 第8回 ことばの乱れ？① 「ら抜きことば」など 第9回 ことばの乱れ？② 「コンビ敬語」など 第10回 文法とことばの正しさ 第11回 方言・位相とことばの正しさ 第12回 漢字表記と送り仮名 第13回 仮名遣い 第14回 まとめと記述課題 第15回 「正しいことばづかい」とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：敬語を含め、授業計画にあることばの問題を身近な例で確認することに努める。（学習時間：90分） 授業後：授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。（学習時間：90分） 特に、前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（コメントシートの記述内容を含む）20%、小テスト20%、中間試験30%、期末試験30%						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい（大学の学びの基本）。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。 						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論応用／多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花					科目ナンバ-	J72110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多文化社会における多様性の理解と共生						
授業の概要	多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では、多文化社会における多様性についてジェンダー、マイノリティ、メディアをキーワードに考察していきます。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージと表現やそれがもたらす影響などについても見ていきます。文化背景の異なる人々の相互理解と共生について考えていきましょう。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める メディアをジェンダー、マイノリティの視点から分析・表現することができる ジェンダー、マイノリティ、多文化に関する社会テーマに関して具体的に説明することができる						
授業計画	<p>第1回イントロダクション 第2回ジェンダーについて 第3回文化とジェンダー 第4回フェミニズムとジェンダー研究 第5回ジェンダーと性別分業、性役割 第6回開発とジェンダー 第7回映像に見る開発とジェンダー 第8回労働とジェンダー 第9回ワーク・ライフ・バランス 第10回創られるジェンダーのイメージ①メディア・リテラシー 第11回創られるジェンダーのイメージ②メディアとジェンダー 第12回創られるイメージ：PSA広告の分析 第13回私たちのメディアをつくる①グループワーク 第14回私たちのメディアをつくる②グループプレゼンテーション 第15回まとめ</p> <p>講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください 予習または復習として調べてくる課題やテーマがある場合は、必ずやってくる						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションと発表を行うため、積極的な参加を望む						
評価基準と評価方法	小テスト50%、課題40%、平常点（授業中の提出物、授業への発言、貢献度等）10%						
履修上の注意	必要に応じて随時資料を配布する 「多文化共生論基礎（多文化共生論A）」を合わせて履修することが望ましい 授業の一環として学外見学を実施する場合があります						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、2013、ミネルヴァ書房（ISBN 9784623065165） 『最新Study Guide メディア・リテラシー 入門編』鈴木みどり、2013、リベルタ出版（ISBN 9784903724379） 『Study Guideメディア・リテラシー ジェンダー編』鈴木みどり、2003、リベルタ出版（ISBN：4-947637-80-3） 『オランダ流ワーク・ライフ・バランス―「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法』中谷文美、2015、世界思想社（ISBN 9784790716464） その他授業中に随時紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論基礎／多文化共生論A						
担当教員	辻野 梨花					科目ナンバ-	J72100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共生						
授業の概要	グローバル化の世界的潮流の中で、国境を越えた人の移動が活発な時代を私たちは生きています。多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していきます。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在します。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきます。テーマに応じて海外の事例についてもみていきます。						
到達目標	身近に存在する文化の多様性について説明することができる 多文化共生についての理解を深める グローバルな世界情勢とローカルでの状況との関連性を説明することができる						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要 第3回映像に見る多文化社会日本の歴史 第4回異文化接触空間と多文化イベント 第5回グローバル化と共生 第6回グローバル化と人の移動 第7回グローバル化と日本社会 第8回外国人労働と受入れのしくみ 第9回外国人労働者の受入れ制度の比較 第10回在住外国人と暮らし 第11回在日外国人と労働 第12回在住外国人の語りに耳を傾ける 第13回グループワーク 第14回グループプレゼンテーション 第15回映像から知る在日外国人と教育とまとめ 講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日ごろから世界情勢や日常の情景に目を向け、関心をもつ習慣を身につけてください 予習または復習として調べてくる課題やテーマがある場合は、必ずやってくる						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワークや発表を行うこともあります						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらう簡単なレポート・平常点10%で評価する						
履修上の注意	必要に応じて資料を配布する。授業中の課題に積極的に取り組んでください 授業の一環として学外見学を実施する場合があります						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に随時紹介します。 『多文化社会への道』駒井洋編著（明石書店） 『外国人労働者受け入れを問う』宮島喬・鈴木江里子（岩波書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論A/Studies for Second Language Acquisition A						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバ	J73290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	第二言語習得に関する基本的な用語が分かり、説明することができる。第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語(1)独自のルール 第4回：中間言語(2)中間言語の発達 第5回：言語転移(1)母語の影響 第6回：言語転移(2)言語転移に影響する要因 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプットとアウトプット 第10回：アウトプットの効果 第11回：文法を教えることの意義(1)意識的な知識 第12回：文法を教えることの意義(2)教室での学習の意味 第13回：文法を教えることの意義(3)教室でのインプット 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習。(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点(授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等)50%、期末試験50% 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについて翌週授業で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 監修：白井恭弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN:978-4-87424-480-7						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論B/Studies for Second Language Acquisition B						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバ-	J73300
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	第二言語習得に関する基本的な用語が分かり、説明することができる。第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論A復習 第3回：インプット重視の指導 第4回：言語形式に焦点を当てた指導 第5回：フィードバック 第6回：言語習得に及ぼす影響(1)年齢の影響 第7回：言語習得に及ぼす影響(2)バイリンガリズム 第8回：言語学習に成功する人とはどんな人か 第9回：個人差の影響(1)適性 第10回：個人差の影響(2)学習スタイル 第11回：個人差の影響(3)動機づけ 第12回：個人差の影響(4)学習者の性格 第13回：個人差の影響(5)学習ストラテジー 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習。(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等）50%、期末試験50% 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについて翌週授業で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 監修：白井恭弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN:978-4-87424-480-7						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバ-	J72480
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景を踏まえ当時の書の特徴を理解する。その際、具体的な作品を取り上げ鑑賞・臨書し、より理解を深める。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。 中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。						
授業計画	①ガイダンス、中国書道史について ②殷、西周（甲骨文、金文） ③西周、東周（石鼓文、帛書） ④秦、前漢（小篆、隸書） ⑤後漢（八分隸、漢碑） ⑥三国、西晋（残紙、書人の登場） ⑦東晋（王羲之、王献之） ⑧南北朝（龍門二十品） ⑨隋、唐（墓誌銘、初唐の三大家） ⑩唐（中唐・晩唐の書、顔真卿） ⑪宗（淳化閣帖、北宋の四大家） ⑫元、明（趙孟頫、元末明初の書人） ⑬明（中期の書道興隆、董其昌） ⑭清（明末清初の書） ⑮清（揚州八怪、金石学、篆刻）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。 学習時間：90分						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題・レポート50%						
履修上の注意	10回以上の出席が必要。不足の場合は評価対象外となる。 最低限のマナーを守ること。 授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。 関連する展覧会があれば、美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『書Ⅰ』（光村図書）490円（内税） 『書Ⅱ』（光村図書）490円（内税）						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化の諸相						
授業の概要	日本文化とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きていることの意味を問い直す。						
到達目標	日本とその地域文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域文化とは 第3回 日本の範囲 第4回 都道府県の問題 第5回 廃藩置県以後 第6回 中央と地方の問題 第7回 西日本の文化 第8回 東日本の文化 第9回 北日本と南日本 第10回 表日本と裏日本 第11回 ふるさとのこと 第12回 観光と文化 第13回 地域からの発信 第14回 今できること・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	中沢新一『大阪アースダイバー』講談社 ISBN : 978-4-06-217812-9						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の食文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている地域と文化のあるべき姿を問い直す。						
到達目標	日本とその文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化のさまざま 第3回 郷土の料理 第4回 伝統食 第5回 季節の料理 第6回 肉食 第7回 こなもの 第8回 和菓子 第9回 洋菓子 第10回 そば食 第11回 うどん文化 第12回 名物料理 第13回 駅弁 第14回 食文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	嵐山光三郎『文人悪食』新潮文庫 ISBN : 978-4-10-141905-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学応用／日韓対照言語学B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	韓国語運用力の向上と日韓対照形態統語論						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	(1) 言語形式に単位および構造が存在することを知る。 (2) 文法の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を知る。 (3) 韓国語力向上に繋がる文法の要点を掴む。 (4) 学説が必ずしも定まっておらず異なることを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 形態法から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 03: 教科書第7-8課の学習 04: 名詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 05: 教科書第9-10課の学習 06: 動詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 07: 教科書第11-12課の学習 08: 形容詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 09: 教科書第13-14課の学習 10: 統語法から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 11: 教科書第15-16課の学習 12: 句および節の構造から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 13: 教科書の総復習 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 各課の課題 (2) 各課の演習の準備 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	日々の課題：40点 試験：60点 出席点は無く、出欠も取らない。						
履修上の注意	(1) 韓国語の辞書を必ず用意すること。スマートフォン経由でオンライン辞書を利用してもよいが、書籍辞書および電子辞書とは異なり、授業中の使用機会は制限される。 (2) 6割以上の課題合計点を獲得した者にのみ単位を與へる。 (3) 特段の理由無く欠席した者に對する学習補助は一切行なはない。 (4) 學外實習無し。						
教科書	金 京子・喜多 恵美子 (2013) 『改訂版 パランセ韓国語初級』、朝日出版社						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 梅田 博之 (1985) 『NHKハングル入門』、日本放送出版協会 油谷 幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』、白帝社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学基礎／日韓対照言語学A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	韓国語の基礎の習得と日韓対照音韻論						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義。						
到達目標	(1) 音聲、音素、文字の関係を掴む。 (2) 音韻の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を知る。 (3) 韓国語力向上に繋がる音聲判別の要点を掴む。 (4) 学説が必ずしも定まっておらず、異なることを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: ハングルの読み書き: 母音 03: 教科書第1課の学習 04: ハングルの読み書き: 子音 05: 教科書第2課の学習 06: 音聲と音素との違い 07: 教科書第3課の学習 08: 韓国語音素論 09: 教科書第4課の学習 10: 日韓対音素論 11: 教科書第5課の学習 12: モーラ、音節、アクセント 13: 教科書第6課の学習 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 各課の課題 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点 出席点は無く、出欠も取らない。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く欠席した者に對する学習補助は一切行なはない。 (2) 学外実習無し。						
教科書	金 京子・喜多 恵美子 (2013) 『改訂版 パランセ韓国語初級』、朝日出版社						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 梅田 博之 (1985) 『NHKハングル入門』、日本放送出版協会 油谷 幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』、白帝社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学応用／日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ-	J72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、教授効果をあげる工夫ができる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①中国の通過儀礼（結婚式事情） ②日中祝祭日比較 ③外来語の受容と色彩感覚の差異 ④日本語と中国語の同形異義語 ⑤中国語の発音特性 ⑥中国語の文法特性 ⑦中国人日本語学習者の誤用分析 ⑧日本語と中国語の対照論文分析Ⅰ ⑨日本語と中国語の対照論文分析Ⅱ ⑩まとめ、ディスカッション、課題提示 ⑪個人研究発表1（国情の違い） ⑫個人研究発表2（文化・風習の違い） ⑬個人研究発表3（言葉の違い） ⑭研究発表の補足と講評 ⑮総まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50%（出席点、授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各-1点）、研究発表20%、レポート30%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学基礎／日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ-	J72050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握できる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①中国・中国語概況 ②日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響 ③日中同形異義語 ④中国人にとって難しい日本語（作文） ⑤中国人にとって難しい日本語（会話） ⑥字幕翻訳について ⑦日本語と中国語の文法の違い ⑧アルファベットや数字によるコミュニケーション ⑨日本と中国の文化・風習の違い ⑩日中の飲食文化について ⑪まとめ ⑫受講生がテーマを決めて研究発表（習慣） ⑬受講生がテーマを決めて研究発表（文化） ⑭受講生がテーマを決めて研究発表（語彙・翻訳） ⑮総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50%（出席点、授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各-1点）、研究発表30%、レポート20%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学応用／日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子					科目ナンバ-	J72040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究、及び実例の考察						
授業の概要	『日英対照言語学A』に引き続き、日本語と英語についてあらゆる側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていくとともに、実際に日常生活の中で見聞きし使用している表現についても考察していきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶだけでなく、実生活においての実例を考察することが出来る。						
授業計画	第1回 言語の方言 (1) 英語編 第2回 言語の方言 (2) 日本語編 第3回 言語と社会階級 (1) 英語編 第4回 言語と社会階級 (2) 日本語編 第5回 人種・民族による語差 第6回 性別による語差 第7回 年齢による語差 第8回 ことばの持つイメージ 第9回 言語接触 (1) 英語編 第10回 言語接触 (2) 日本語編 第11回 非言語伝達 (1) 英語編 第12回 非言語伝達 (2) 日本語編 第13回 言語と文化 (1) 英語編 第14回 言語と文化 (2) 日本語編 第15回 総まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。 復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義、実技						
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度 (30%)、復習テスト (30%)、レポートテスト (40%)						
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑は事前予約してください。 5. 『日英対照言語学A』を履修していることが望ましい。						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学基礎／日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子					科目ナンバ-	J72030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 (英語以前～古英語) 第3回 言語の歴史 (2) 英語編 (中期英語) 第4回 言語の歴史 (3) 英語編 (近代英語～現代英語) 第5回 言語の歴史 日本語編 第6回 言語の語彙 (1) 英語編 第7回 言語の語彙 (2) 日本語編 第8回 言語の語順 第9回 言語の音韻体系 (1) 英語編 第10回 言語の音韻体系 (2) 日本語編 第11回 言語の文字体系 (1) 英語編 第12回 言語の文字体系 (2) 日本語編 第13回 丁寧表現 (1) 英語編 第14回 丁寧表現 (2) 日本語編 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。 復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度 (30%)、復習テスト (30%)、レポートテスト (40%)						
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑等は事前に予約をしてください。						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73380
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	アクセント研究の体験と企画力の養成						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の研修。						
到達目標	(1) 日本語アクセントの基礎を知る。 (2) 事物を比較する方法を身に付ける。 (3) 企画や催しを主体的に計画・準備する力を身に付ける。 (4) 学説が必ずしも定めてゐないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 日本語アクセント概説 03: アクセントの聞き取り練習 04: アクセント調査票の作成 05: アクセント調査の豫行と調査票の問題点の確認。 06: 学外研修: アクセントの聞き取り調査 07: 調査結果報告						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 音聲ファイルの聞き取り (2) 論文読解 授業は豫習を前提にすすめる。						
授業方法	講義および研修						
評価基準と評価方法	調査準備: 25% 實地調査: 25% 學期末報告書: 50% 特段の理由無く2回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	(1) 学外研修として神戸市近郊で行なふアクセント調査には必ず参加すること。 (2) なほ、その日時は第6回を豫定してゐるが、初回に尋ねる受講者の都合によっては、別の回に戻す。 (3) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。						
教科書	松森 晶子ほか (2012)『日本語アクセント入門』、三省堂						
参考書	服部 二郎 (1951)『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 金田一 春彦 (1974)『国語アクセントの史的研究 原理と方法』、塙書房 斎藤 純男 (2006)『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J73390
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	王朝びとの装束と住まいの探究						
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や下鴨神社などの寺社を訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、京都風俗博物館や平安京創生館などを訪ねて、袷や狩衣を着装し、王朝人の装束について学習する。						
到達目標	王朝びとの生活と文化について、その様相を説明できる。 学習し、調査したことについて説明できる。						
授業計画	第1回 講義：学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：王朝びとの住まいについて（「学外研修①」についての説明） 第3回 学外研修①：京都御所・下鴨神社など 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：王朝びとの装束について（「学外研修②」についての説明） 第6回 学外研修②：京都風俗博物館・平安京創生館・西本願寺など 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：実地踏査で学んだことの調査・探究したレポート発表 第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	王朝びとの生活と文化に関する本を読んだり、写真集・図録や映像を見たりして、理解を深める。 興味を持った事柄について、さらに調べ、探究する。						
授業方法	講義と学外研修						
評価基準と評価方法	レポート発表 60% 小テスト 30% 授業・学外研修に対する取り組み 10%						
履修上の注意	6回の講義は火曜4時限に教室で行うが、 2回の学外研修は受講者と相談のうえ、別の日（土日の場合もある）に実施する。 寺社見学などの費用（500円程度×2回）と交通費が必要となる。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	適宜提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73280
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学および音韻論						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義。						
到達目標	(1) 音聲、音素、文字の関係を掴む。 (2) 音聲に象徴性が備わっていることを知る。 (3) 科学的分析方法の条件を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっておらずであることを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 音聲とその象徴性 03: 「1. 「マル」と「ミル」はどちらが大きい？」の講義 04: 「2. 「あかさたな」とサンスクリット研究」の講義 05: 国際音声字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解 06: 「3. 世界中のことばを記録する方法」の講義 07: 調音音声学と音響音声学 08: 音声分析実践 09: 「4. 音を目で見る」の講義 10: 「5. 声紋分析官への道」の講義 11: 知覚音声学 12: 「6. ないはずの音が聞こえる日本人」の講義 13: 「7. 社会との接点を目指して」の講義 14: 全体的まとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟読 (2) 講義資料作成 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点 出席点は無く、出缺も取らない。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く欠席した者に對する学習補助は一切行なはない。 (2) 学外実習無し。						
教科書	川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』、岩波書店						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の位相差を知る						
授業の概要	たとえば同じ内容のことを表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意等の違いによって言語にはさまざまな変種があり得る。この講義では、そのようなことばのバリエーションに注目し、その解を深めることを目指す。主に前半では地域差に注目し、後半はその他の位相差を取り扱う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の位相差に関する基礎的知を身につけ、それを説明できる 日本語の位相差に関するデータを観察することで、正しい分析結果を導き出すことができる 						
授業計画	第1回: 社会言語学の研究域 第2回: 方言のさまざまな分布と解釈 第3回: 発音の地域差 第4回: アクセントの地域差 第5回: 文法の地域差 (1) —活用の地域差など— 第6回: 文法の地域差 (2) —条件表現の地域差など— 第7回: 待遇表現・その他の地域差 第8回: ここまでのまとめ 第9回: 言語と属性 (1) —性— 第10回: 言語と属性 (2) —社会階層— 第11回: 言語と属性 (3) —年齢差— 第12回: 言語と属性 (4) —年齢・世代による変化— 第13回: 言語意識 第14回: 言語と文化 第15回: 総括						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前: 授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。(学習時間: 90分) 授業後: 授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間: 90分)						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 (コメントシートの内容含む) 20%、小テスト30%、中間試験20%、期末試験30%						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい (大学の学びの基本です)。 私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある (退席者は当該の回は欠席と見做す)。 						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著『方言学入門』 (2013、三堂) 小隆・篠崎晃一編『方言の発一知られざる地域差を知る』 (2010、ひつじ書房)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎／日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、模擬授業のためなさまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、模擬授業を実施する。授業外ではアメリカ、アジアの協定校からの語学留学生の日本語パートナーとして、日本語習得の手伝いをして、日本語指導だけではなく、異文化コミュニケーションも体験することができる授業となる。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習（見学）を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 模擬授業6 L11, L12 第15回 学外の日本語教育施設における授業見学						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践／日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、模擬授業と教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置く。最後に学内の英語教員、あるいは学外の日本語学習者などを対象とした教壇実習を行う。この教壇実習は、媒介語、板書、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え、フィードバックをもらう。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 レポートの好評 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 ゲームを作ってみましょう 第5回 模擬授業1 L13, L14 第6回 模擬授業2 L15, L16 第7回 模擬授業3 L17, L18 第8回 模擬授業4 L19, L20 第9回 模擬授業5 L21, 第10回 模擬授業6 L22, 第11回 模擬授業7 L23, 第12回 模擬授業8 L24, 第13回 模擬授業9 L25, 第14回 模擬授業の振り返り・まとめ 第15回 学外での教壇実習（あるいは見学）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J01030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育入門						
授業の概要	日本語を教えるためには、まず、日本語そのものについて知る必要がある。そのため、まず、母語としての日本語ではなく、外国語としての日本語をどのようにとらえるかを学んでいく。同時に、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深めていく。また、このクラスでは留学生との合同授業を行うことがあるので、積極的に参加してほしい。						
到達目標	1. 日本語教育についての基礎的知識を身につける。 2. 留学生と異文化コミュニケーションを行うことができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語の特徴 第3回 序数詩 第4回 世界の文字 第5回 ひらがなを教えてみよう 第6回 変体仮名 第7回 敬語について1 第8回 敬語について2 第9回 共通語の成り立ち 第10回 あいまいな日本語 第11回 忌み言葉 第12回 若者言葉 第13回 留学生との合同授業 第14回 日本語のコミュニケーションストラテジー 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習又は復習として調べてきてほしいテーマや課題を出すので、必ずやってくること（学習時間60分）						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションも行うため、積極的な参加を望む。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への発言や貢献度、取り組みも含む）50%、 小テスト、授業中課題10% 期末レポートあるいは試験40%						
履修上の注意	全講義回数の4/5以上の出席がなければ、期末レポートや試験を受ける資格を失う						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。また、このクラスでは留学生との合同授業も行います。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類 第4回 辞書形 第5回 ます形 第6回 て形 第7回 た形 第8回 可能形 第9回 受身形 第10回 使役形 第11回 条件 第12回 自動詞 第13回 他動詞 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 授業後学習：授業で取り上げた内容やキーワードについて調べ、それに関する課題や問題をやってくること。（学習時間60分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。また、このクラスでは留学生との合同授業も行います。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類 第4回 辞書形 第5回 ます形 第6回 て形 第7回 た形 第8回 可能形 第9回 受身形 第10回 使役形 第11回 条件 第12回 自動詞 第13回 他動詞 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 授業後学習：授業で取り上げた内容やキーワードについて調べ、それに関する課題や問題をやってくること。（学習時間60分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 テンス 第3回 アスペクト 第4回 モダリティ 第5回 終助詞 第6回 副詞 第7回 接続詞 第10回 待遇表現 第11回 敬語 第12回 対照言語学 第13回 初級の指導 第14回 中級の指導 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 授業後学習：授業で取り上げた内容やキーワードについて調べ、それに関する課題や問題をやってくること。 (学習時間60分)						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 テンス 第3回 アスペクト 第4回 モダリティ 第5回 終助詞 第6回 副詞 第7回 接続詞 第10回 待遇表現 第11回 敬語 第12回 対照言語学 第13回 初級の指導 第14回 中級の指導 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説 1 世界と日本 第3回：日本語教育概説 2 異文化接触 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法 1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法 2 T P R 第8回：外国語教授法 3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法 4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法 5 O P I 第11回：外国語教授法 6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間90分）						
授業方法	講義またはグループワーク。ミニ発表の可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 世界と日本 第3回：日本語教育概説2 異文化接触 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 「読解」「聴解」 第3回：教科書研究2 「作文」「会話」 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 「パターンプラクティス」 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 「タスク」 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 「スキミング」 第8回：「読む」「書く」指導法 1 「スキミング」 第9回：「読む」「書く」指導法 2 「精読」 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	講義またはグループワーク。ミニ発表の可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 「読解」「聴解」 第3回：教科書研究2 「作文」「会話」 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 「パターンプラクティス」 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 「タスク」 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 「スキミング」 第8回：「読む」「書く」指導法 1 「スキミング」 第9回：「読む」「書く」指導法 2 「精読」 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J01020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）ひらがな、カタカナ 第7回 ここまでのまとめ① 第8回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査 第9回 日本語の語彙（2）語の意味 第10回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第11回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第12回 日本語の方言（1）方言区画、東西対立分布 第13回 日本語の方言（2）周圏分布、様々な地域差 第14回 ここまでのまとめ② 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：90分） 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。（学習時間：90分） 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。また、manabaを用いた小テスト等の課題を課すことがある。授業時にも小テスト等を行うことがある。						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20% ※平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）ひらがな、カタカナ 第7回 ここまでのまとめ① 第8回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査 第9回 日本語の語彙（2）語の意味 第10回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第11回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第12回 日本語の方言（1）方言区画、東西対立分布 第13回 日本語の方言（2）周圏分布、様々な地域差 第14回 ここまでのまとめ② 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：90分） 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。（学習時間：90分） 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。また、manabaを用いた小テスト等の課題を課すことがある。授業時にも小テスト等を行うことがある。						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20% ※平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説を読む						
授業の概要	中島京子の『平成大家族』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家で、その『平成大家族』は自己破産、結婚、離婚、シングルマザー、いじめ、ひきこもり、認知症、介護などの問題を抱える四世帯同居大家族の混線連作小説集である。「酔こんぶプラン」「公立中サバイバル」、「時をかける老婆」、「吾輩は猫ではない」など。現代小説における諸問題もさることながら、現代日本における家族や文化風俗の問題も当然、演習での課題となることであろう。						
到達目標	現代小説の実態を把握することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 中島京子について 第3回 『平成大家族』について 第4回 家族小説のこと 第5回 結婚 第6回 離婚 第7回 自己破産 第8回 シングルマザー 第9回 ひきこもり 第10回 認知症 第11回 介護 第12回 公立と私立 第13回 家長 第14回 大家族 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	現代の文化風俗や現代日本語について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	中島京子『平成大家族』集英社文庫 ISBN:9784087466188						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料さがすことができる。						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ---助詞 第6回 文の要素のとりたて---焦点化 第7回 ハとガの話---主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1---受身 第10回 ヴォイス2---使役 第11回 ヴォイス3---授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス---述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1---ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2---テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発表が当たった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 (授業外学習120分)						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	授業態度（50%）発表（20%）レポート（30%） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	言語の研究において、音声や意味や文法の研究は重要なトピックであるが、実際の話しことばではそれら以外にも、地域、(言語)文化、対人関係、場面などによって適切なことばは選択され、運用されている。この第一演習では、これら社会にある諸側面との関連においてことばを研究する。この時、まずはどのようなことが問題となるのかを知る必要があるので、テキストを用いてこれらを考える材料としたい。あることばやことばの用い方に対して抱く「なんか変だ」「ちょっと気になる」「自分の使い方とは違う」等々の直感を、データ収集とデータ分析を通して、研究のレベルまで発展させていってほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章の適切な要約をすることができる 日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 発表の方法 第3回 日本語に関するテキストの講読①(第1章) 第4回 日本語に関するテキストの講読②(第2章) 第5回 日本語に関するテキストの講読③(第3章) 第6回 日本語に関するテキストの講読④(第4章) 第7回 日本語に関するテキストの講読⑤(第5章) 第8回 日本語に関するテキストの講読⑥(第6章) 第9回 日本語に関するテキストの講読⑦(第7章) 第10回 日本語に関するテキストの講読⑧(第8章) 第11回 日本語に関するテキストの講読⑨(第9章) 第12回 日本語に関するテキストの講読⑨(第10章) 第13回 日本語に関するテキストの講読⑨(第11章) 第14回 後期授業発表内容の検討 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨む。(学習時間：90分) 授業後：授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分) また、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑)60%、発表(質疑に対する応答含む)40%						
履修上の注意	講読、テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門—』光文社 ISBN：978-4-334-03746-8						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（飛鳥～桃山時代）について理解する。 特に、書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察する。						
到達目標	①日本の美術の展開（飛鳥～桃山時代）を理解する。 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 飛鳥時代 3) 奈良時代 4) 平安時代① 5) 平安時代② 6) 平安時代③ 7) 平安時代④ 8) 平安時代⑤ 9) 鎌倉時代① 10) 鎌倉時代② 11) 室町時代、桃山時代① 12) 室町時代、桃山時代② 13) 室町時代、桃山時代③ 14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間90分）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、そこに「各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて」の報告書を出品する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説の諸問題						
授業の概要	中島京子の『小さいうち』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家である。前期に引き続き、中島京子を視座として、現代小説における諸問題を考える。						
到達目標	現代小説の実態を把握して現代の日本語や文化風俗への認識を深化できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本の家族制度 第3回 昭和初期 第4回 回想録 第5回 女中の存在 第6回 結婚 第7回 戦争の影 第8回 国際化の問題 第9回 婚活小説 第10回 就活小説 第11回 現代日本語 第12回 現代小説の問題 第13回 直木三十五賞 第14回 出版文化 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	現代の文化風俗や現代日本語について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	中島京子『小さいうち』文春文庫 ISBN 978-4-16-784901-6						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表 第2回 夏休みのレポートの発表 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティの表現 第10回 出来事の間接づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現—敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発表が当たった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習120分）						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	授業態度（50%）発表（20%）レポート（30%） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	言語の研究において、音声や意味や文法の研究は重要なトピックであるが、実際の話しことばではそれら以外にも、地域、(言語)文化、対人関係、場面などによって適切なことばは選択され、運用されている。この第一演習では、これら社会にある諸側面との関連においてことばを研究する。前期テキストで学んだことを踏まえて、後期は実際に自分でデータを取り分析することとする。 あることばやことばの用い方に対して抱く「なんか変だ」「ちょっと気になる」「自分の使い方とは違う」等々の直感を、データ収集とデータ分析を通して、研究のレベルまで発展させていってほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる 基本的な知識と手法を用いてことばを分析できる 他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができる 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 データの取り方 第3回 分析の方法 第4回 発表内容の検討① 第5回 発表内容の検討② 第6回 発表内容の検討③ 第7回 発表内容の検討④ 第8回 個人別演習発表① 第9回 個人別演習発表② 第10回 個人別演習発表③ 第11回 個人別演習発表④ 第12回 個人別演習発表⑤ 第13回 個人別演習発表⑥ 第14回 個人別演習発表⑦ 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨む。(学習時間：90分) 授業後：授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分) また、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(質疑内容含む)60%、 発表(質疑に対する応答含む)40%						
履修上の注意	テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門—』光文社 ISBN：978-4-334-03746-8						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（江戸～明治時代）について理解する。 特に、書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察する。						
到達目標	①日本の美術の展開（江戸～明治時代）を理解する。 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) 江戸時代① 2) 江戸時代② 3) 江戸時代③ 4) 江戸時代④ 5) 江戸時代⑤ 6) 江戸時代⑥ 7) 江戸時代⑦ 8) 明治時代① 9) 明治時代② 10) 明治時代③ 11) 明治時代④ 12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて① 13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて② 14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間：90分）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標①の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、「各自の関心事について発表～卒業論文に向けて」の報告書を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 第2演習についての位置づけについての概説</p> <p>第2回 語彙分析の方法について</p> <p>第3回 語彙分析の発表と質疑応答1</p> <p>第4回 語彙分析の発表と質疑応答2</p> <p>第5回 語彙分析の発表と質疑応答3</p> <p>第6回 アンケート調査の方法について</p> <p>第7回 用例採取の方法論について</p> <p>第8回 会話分析の方法について</p> <p>第9回 会話分析の発表と質疑応答1</p> <p>第10回 会話分析の発表と質疑応答2</p> <p>第11回 会話分析の発表と質疑応答3</p> <p>第12回 用例分析の方法</p> <p>第13回 用例分析の発表と質疑応答1</p> <p>第14回 用例分析の発表と質疑応答2</p> <p>第15回 前期のまとめとレポートについての指示</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 (学習時間120分)</p> <p>それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。</p>						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価基準と評価方法	<p>授業態度(50%) 発表(20%) レポート(30%)</p> <p>授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。</p> <p>発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 <p>なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。</p>						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	文献講読を通しての日本語・日本文化研究						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の演習。						
到達目標	(1) 日本語文献に関する書誌学的知識を得る。 (2) 過去の日本語に対する理解力を高める。 (3) 過去の日本文化に対する理解力を高める。 (4) 學説が必ずしも定めてゐないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明と各受講生の擔當範囲の決定 02: 講読用資料作成の指導 (1) 03: 講読用資料作成の指導 (2) 04: 講読用資料作成の指導 (3) 05: 発表擔當者を中心とする講読演習 (1) 06: 発表擔當者を中心とする講読演習 (2) 07: 発表擔當者を中心とする講読演習 (3) 08: こゝまでの問題點の反省 09: 発表擔當者を中心とする講読演習 (4) 10: 発表擔當者を中心とする講読演習 (5) 11: 発表擔當者を中心とする講読演習 (6) 12: こゝまでの問題點の反省 13: 発表擔當者を中心とする講読演習 (7) 14: 発表擔當者を中心とする講読演習 (8) 15: 總括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟讀 (2) 講読資料作成 (3) 論文讀解 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表: 50% 質疑應答: 25% 學期末報告書: 25% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に対する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	『伊曾保物語: 天草本』、新村 出 (訳)、岩波書店、1997年 (岩波文庫・黄141-1) 絶版につき、教員が中古品を受講生分買ひ揃へる。教科書代として1,000圓ほど用意すること。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。 この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの的確な要約ができるようになる。 ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。 ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近接領域の論文の検討 第3回 先行研究の読み方・まとめ方 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：90分） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：90分）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%と発表40%						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、1年間の授業で、細かく読解、分析して行くことは難しい。そこで、本演習では、まず、本学図書館所蔵の3種の「源氏物語かるた」の探究を入り口として、そこに書かれた歌や本文を読み解き、また、描かれた絵の場面や景物を解明して、『源氏物語』の世界を考察して行く。 また、『源氏物語』に関して、各人が興味を持つ課題について探究する。それは、『源氏物語』における人物論でも表現論でも、和歌についてでもよいし、物語の中に現れた、平安時代の文化について取り上げてよい。それぞれの興味、関心に従って、『源氏物語』とその周辺の問題について掘り下げてほしい。						
到達目標	『源氏物語』の展開が説明できる。 『源氏物語』の本文が注釈書を参考にしながら読解できる。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『源氏物語』の概説講義 第2回 『源氏物語』の成立と構成についての講義 第3回 『源氏物語』の伝本についての講義 第4回 『源氏物語』絵についての講義 第5回 桐壺巻の演習 第6回 篝火巻の演習 第7回 空蝉巻の演習 第8回 夕顔巻の演習 第9回 若紫巻の演習 第10回 葵巻の演習 第11回 賢木巻の演習 第12回 須磨巻の演習 第13回 明石巻の演習 第14回 藤裏葉巻の演習 第15回 『源氏物語』第1部のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	『源氏物語』の展開を理解できるよう、その流れを確認しておく。 『源氏物語』の本文が読解できるよう、古典語彙や文法について学習する。 平安時代の文化に興味を持ち、探究する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 小テスト 20% 演習に対する取り組み 20%						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	源氏物語ハンドブック 鈴木日出男編(三省堂) 978-4-385-41034-0						
参考書	『源氏物語評釈』(角川書店) 新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 『源氏物語図典』(小学館) その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（江戸～明治時代）について理解する。 書、絵画などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	①日本の美術の展開（江戸～明治時代）を理解する。 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 江戸時代① 3) 江戸時代② 4) 江戸時代③ 5) 江戸時代④ 6) 江戸時代⑤ 7) 江戸時代⑥ 8) 江戸時代⑦ 9) 江戸時代⑧ 10) 明治時代① 11) 明治時代② 12) 明治時代③ 13) 論文の書き方 14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間90分）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、「各自の関心事について小発表～卒業論文に向けて」の報告書を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。</p> <p>第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 1</p> <p>第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 2</p> <p>第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 3</p> <p>第4回 用例採取の方法 1</p> <p>第5回 用例採取の方法 2</p> <p>第6回 各自のテーマの発表と質疑応答 1</p> <p>第7回 各自のテーマの発表と質疑応答 2</p> <p>第8回 各自のテーマの発表と質疑応答 3</p> <p>第9回 各自のテーマの発表と質疑応答 4</p> <p>第10回 各自のテーマの発表と質疑応答 5</p> <p>第11回 各自のテーマの発表と質疑応答 6</p> <p>第12回 各自のテーマの発表と質疑応答 7</p> <p>第13回 各自のテーマの発表と質疑応答 8</p> <p>第14回 各自のテーマの発表と質疑応答 9</p> <p>第15回 第2演習のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。</p> <p>（学習時間120分）</p> <p>それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。</p>						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度（50%）発表（20%）レポート（30%）</p> <p>授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。</p> <p>発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 <p>なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。</p>						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	文獻講讀を通しての日本語・日本文化研究						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の演習。						
到達目標	(1) 日本語文獻に関する書誌學的知識を得る。 (2) 日本語諸變種に對する理解力を高める。 (3) 日本各地の文化に對する理解力を高める。 (4) 學説が必ずしも定めてゐないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計畫、到達目標の説明 02: 講讀資料作成の指導 (1) 03: 講讀資料作成の指導 (2) 04: 講讀資料作成の指導 (3) 05: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (1) 06: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (2) 07: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (3) 08: こゝまでの問題點の反省 09: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (4) 10: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (5) 11: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (6) 12: こゝまでの問題點の反省 13: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (7) 14: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (8) 15: 總括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟讀 (2) 講讀資料作成 (3) 論文讀解 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表: 50% 質疑應答: 25% 學期末報告書: 25% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く缺席した者に對する學習補助は一切行なはない。 (2) 學外實習無し。						
教科書	松本 修 (1996)『全国アホ・バカ分布考: はるかなる言葉の旅路』、新潮社 (文庫版) 真田 信治 (2002)『方言の日本地図: ことばの旅』、講談社 Kindle版は版組みの問題から禁止。						
参考書	真田 信治 (2001)『方言は絶滅するのか: 自分のことばを失った日本人』、PHP研究所 小林 隆ほか (2008)『シリーズ方言学1 方言の形成』、岩波書店 真田 信治ほか (2011)『日本語ライブラリー 方言学』、朝倉書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。 この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた的確な分析をすることができるようになる。 ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 分析の方法 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：90分） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：90分）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%と発表40%						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、1年間の授業で、細かく読解、分析して行くことは難しい。そこで、本演習では、まず、本学図書館所蔵の3種の「源氏物語かるた」の探究を入り口として、そこに書かれた歌や本文を読み解き、また、描かれた絵の場面や景物を解明して、『源氏物語』の世界を考察して行く。 また、『源氏物語』に関して、各人が興味を持つ課題について探究する。それは、『源氏物語』における人物論でも表現論でも、和歌についてでもよいし、物語の中に現れた、平安時代の文化について取り上げてよい。それぞれの興味、関心に従って、『源氏物語』とその周辺の問題について掘り下げてほしい。						
到達目標	『源氏物語』の展開が説明できる。 『源氏物語』の本文が注釈書を参考にしながら読解できる。						
授業計画	第1回 『源氏物語』の巻名と梗概についての講義 第2回 若菜上巻の演習 第3回 若菜下巻の演習 第4回 柏木巻の演習 第5回 鈴虫巻の演習 第6回 夕霧巻の演習 第7回 御法巻の演習 第8回 幻巻の演習 第9回 匂宮巻の演習 第10回 橋姫巻の演習 第11回 総角巻の演習 第12回 東屋巻の演習 第13回 浮舟巻の演習 第14回 夢浮橋巻の演習 第15回 『源氏物語』第2部・第3部についてのまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	『源氏物語』の展開を理解できるよう、その流れを確認しておく。 『源氏物語』の本文が読解できるよう、古典語彙や文法について学習する。 平安時代の文化に興味を持ち、探究する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 小テスト 20% 演習に対する取り組み 20%						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	第2演習Aと同じものを使用する。						
参考書	『源氏物語評釈』(角川書店) 新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 『源氏物語図典』(小学館) その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（大正～現代）について理解する 書、絵画などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	①日本の美術の展開（大正～現代）を理解する。 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) 大正時代① 2) 大正時代② 3) 大正時代③ 4) 昭和初期① 5) 昭和初期② 6) 戦中・戦後① 7) 戦中・戦後② 8) 現代 9) 現代 10) 書について① 11) 書について② 12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて① 13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて② 14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間：90分）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標①の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、卒業論文を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス、日本書道史について 2) 漢字の伝来以前と漢字の受容 3) 奈良時代①(中国の書) 4) 奈良時代②(天平文化・万葉仮名) 5) 平安時代前期(唐様・三筆とその周辺) 6) 平安時代中期～後期①(和様・三蹟とその周辺) 7) 平安時代中期～後期②(仮名の誕生から完成) 8) 平安時代中期～後期③(仮名と古今和歌集、料紙) 9) 平安時代末期～鎌倉時代(俊成・定家、平家納経) 10) 室町時代(墨跡) 11) 安土桃山～江戸初期(寛永の三筆とその周辺) 12) 江戸時代～明治初期(御家流、文人の書) 13) 明治・大正時代(楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論) 14) 昭和初期・戦後現代 15) 今日の書の展望(ゲストスピーカーによる講義) 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。(学習時間:90分) 紹介した展覧会の鑑賞。						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20%: 授業態度 テスト50%: 到達目標①の到達度確認 課題・レポート30%: 到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『決定版 日本書道史』名兎耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円+税金 適宜プリントを配布する。						
参考書	『書学挙要―書の歴史と文化―』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。</p> <p>平安貴族の暮らしと文化に関する言葉について理解し、その言葉を表わす漢字を読むことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>興味を持った事柄について、自身でも深め、探究する。</p> <p>プリントに示した言葉を理解し、その言葉を表わす漢字を読むことができるよう復習する。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 70%</p> <p>小テスト 20%</p> <p>取り組みの意欲など平常の姿勢 10%</p>						
履修上の注意	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。</p> <p>3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。</p>						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD						
担当教員	大坪 亮介					科目ナンバー	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『後三年合戦絵詞』と『男衾三郎絵詞』を読む						
授業の概要	中世に製作された絵巻『後三年合戦絵詞』と『男衾三郎絵詞』を読む。前者は11世紀の東北地方で勃発した戦いを描く。後者は吉見二郎・男衾三郎兄弟の物語である。この二つの絵巻作品の読解を通じて、中世を生きた武士たちの心性に迫る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と詞書との関係に注目しながら絵巻作品を読解できるようになる。 ・武士の実態や武士社会のあり方についての基礎的な知識を身につける。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『後三年合戦絵詞』・『男衾三郎絵詞』概説 第3回 『後三年合戦絵詞』上巻前半部の読解 第4回 『後三年合戦絵詞』上巻後半部の読解 第5回 『後三年合戦絵詞』中巻前半部の読解 第6回 『後三年合戦絵詞』中巻後半部の読解 第7回 『後三年合戦絵詞』下巻前半部の読解 第8回 『後三年合戦絵詞』下巻後半部の読解 第9回 『男衾三郎絵詞』第一段の読解 第10回 『男衾三郎絵詞』第二段の読解 第11回 『男衾三郎絵詞』第三段の読解 第12回 『男衾三郎絵詞』第四段の読解 第13回 『男衾三郎絵詞』第五段の読解 第14回 『男衾三郎絵詞』第六段・第七段の読解 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で読解する詞書部分はその前の週に配布しておくので、語句や文法等の予習をじゅうぶんしておくこと。授業後はプリントをよく読み返し、授業の内容を定着させておくこと。						
授業方法	基本的に講義形式だが、詞書の読解については一部受講生自身で行ってもらう。						
評価基準と評価方法	平常点30%（毎回配布するリアクションペーパーの内容等） 期末試験70%						
履修上の注意	全体の1/3以上欠席した場合は単位認定の対象としない。						
教科書	プリント配布。						
参考書	五味文彦『武士と文士の中世史』（東京大学出版会、1992年） その他、適宜授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化ういまなび						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、文化の何たるかを様々な視点から検討することで、今、我々が生きていることの意味を問い直す。						
到達目標	日本とその文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化とは 第3回 日本の範囲 第4回 年間行事 第5回 民間暦 第6回 中央と地方の問題 第7回 西日本の文化 第8回 東日本の文化 第9回 北日本と南日本 第10回 食文化 第11回 出版文化 第12回 観光と文化 第13回 文化的営み 第14回 日本文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	三浦しをん『ふむふむ—おしえて、お仕事！』新潮文庫 ISBN：978-4-10-116763-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文学と美術工芸／日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における『伊勢物語』 享受の様相を学ぶ						
授業の概要	平安時代の『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本授業では、『伊勢物語』の本文を紹介しながら、それを描いた絵巻・絵本や、『伊勢物語』をもとにして制作された美術工芸品について講義する。『伊勢物語』がどのように捉えられ、どのように享受されてきたかを考察したい。						
到達目標	『伊勢物語』の絵巻・絵本の特徴を理解し、説明することができる。 『伊勢物語』を享受した美術工芸品の特徴を理解し、説明することができる。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』とその影響を受けた美術工芸品 第2回 『白描本伊勢物語絵巻』 第3回 『久保惣本伊勢物語絵巻』 第4回 『異本伊勢物語絵巻』 第5回 『小野家本伊勢物語絵巻』と『チェスタービーティー本伊勢物語絵本』 第6回 『スペンサー文庫本伊勢物語絵巻』 第7回 『中尾家本伊勢物語絵本』 第8回 『嵯峨本伊勢物語』 第9回 『伊勢物語』の屏風 第10回 『甲子園学院本伊勢物語』と『伊勢物語』のかかるた 第11回 『伊勢物語図色紙』ほか、俵屋宗達作品 第12回 『燕子花図屏風』『八橋図屏風』ほか、尾形光琳の屏風 第13回 尾形光琳の『八橋蒔絵螺鈿硯箱』ほか、蒔絵作品 第14回 住吉如慶筆『伊勢物語絵巻』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	古典文学と関わりのある美術工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みの意欲など平常の姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『新校注伊勢物語』片桐洋一・田中まき著（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語 慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版） 『宗達伊勢物語図色紙』（思文閣出版）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	文法の基礎知識／文法・敬語の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする文法論						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義。						
到達目標	(1) 音聲、音素、文字の関係を掴む。 (2) 言語形式に構造および単位が存在することを知る。 (3) 言語の曖昧性および多義性を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっておらず異なることを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 音聲、音素、文字の関係 03: 「1. 字を知らないからわかること」の講義 04: 「2. 「みんな」は何文字？」の講義 05: 形態素と語との違い 06: 語、句、節の構造 07: 「3. これ食べたなら死ぬ？：子どもは一般化の名人」の講義 08: 意味論 09: 「4. ジブンデ！ ミツケル！」の講義 10: 「5. ことばの意味をつきとめる」の講義 11: 語用論 12: 「6. 子どもには通用しないのだ」の講義 13: 「7. ことばについて考える力」の講義 14: 全体のとまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読 (2) 講義資料作成 授業は豫習を前提に進める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日々の課題：40点 試験：60点 出席点は無く、出缺も取らない。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く欠席した者に對する学習補助は一切行なはない。 (2) 学外実習無し。						
教科書	広瀬 友紀 (2017) 『ちいさい言語学者の冒険』、岩波書店						
参考書	服部 二郎 (1960) 『言語学の方法』、岩波書店 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院 南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店 上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、以下のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化に関する物事を調査・探究する。 (2) 調査・探究したことを文章化したり、スライドにまとめたりする。 (3) 文章やスライドを使って、学術的調査の結果を発表する。</p>						
到達目標	<p>(1) 日本語・日本文化に関する物事を文献資料やデータベースで調査・探究できる。 (2) 調査・探究したことを文章やスライドにまとめることができる。 (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っの発表と質疑応答① 第07回 Word資料を使っの発表と質疑応答② 第08回 Word資料を使っの発表と質疑応答③ 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っの発表と質疑応答① 第13回 スライド資料を使っの発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っの発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 文献資料やデータベースの調査・探究 (2) 演習発表資料作成</p>						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% 授業への意欲・取り組み（質問や質疑応答の質）: 20%</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	<p>石黒 圭 (2012)『論文・レポートの基本』、日本実業出版社 必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりもする。</p>						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、以下のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化に関する物事を調査・探究する。 (2) 調査・探究したことを文章化したり、スライドにまとめたりする。 (3) 文章やスライドを使って、学術的調査の結果を発表する。</p>						
到達目標	<p>(1) 日本語・日本文化に関する物事を文献資料やデータベースで調査・探究できる。 (2) 調査・探究したことを文章やスライドにまとめることができる。 (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っの発表と質疑応答① 第07回 Word資料を使っの発表と質疑応答② 第08回 Word資料を使っの発表と質疑応答③ 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っの発表と質疑応答① 第13回 スライド資料を使っの発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っの発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 文献資料やデータベースの調査・探究 (2) 演習発表資料作成</p>						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% 授業への意欲・取り組み（質問や質疑応答の質）: 20%</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	<p>石黒 圭 (2012)『論文・レポートの基本』、日本実業出版社 必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりもする。</p>						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア論A／マスメディア論A						
担当教員	浮田 哲					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー						
授業の概要	新聞、テレビ、雑誌など既存のメディアに加え、インターネットを介した様々な情報の流通ルートが発展し、現代社会は、以前にも増して膨大な情報に溢れている。そんな情報の洪水の中で、我々はどのようにメディアに接し、どう解釈すればいいのか。そして、情報の発信者として気をつけなければならないことは何か。この授業では、そんなメディアとの付き合い方、いわゆるメディアリテラシーについて考察する。なお、映像の読み解きに関しては後期のマスメディア論Bで集中して扱う予定。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異なったメディアの特性の違いについて説明することができる ・新聞社によって、どのように論調が違うかを指摘できる ・ニュースの情報源がどこかを指摘できる ・ニュースに隠された“意図”を読み解くことができる ・日常的にニュースに興味を持てるようになる 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明 2. メディアとは何か？ 3. 我々はどんなメディアに触れてきたのか 4. 新聞を読む① ニュースソースに注目する 5. 新聞を読む② 各紙の紙面づくりと論調の違いについて検討する 6. 新聞を読む③ 新聞の抱える問題 7. 統計調査の「落とし穴」とは 8. 雑誌を読む① スクープの構造 9. 雑誌を読む② 企業ジャーナリズムとフリーランス 10. 出版と表現① 「絶歌」(元少年Aの手記)には何が書いてあるのか 11. 出版と表現② 「絶歌」出版をめぐる問題の検討 12. インターネットを見る① 個人情報を守るか 13. インターネットを見る② ネットにおけるジャーナリズムの可能性 14. インターネットを見る③ ネット動画とのつきあい方 15. まとめとレポート提出 <p>※講義の最初に一週間のニュースを振り返って解説し、メディアリテラシーの見地から検討します ※ニュースという「生モノ」を扱うので、ニュースによって内容が変わることもあります</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	この授業はメディアリテラシーをテーマにしていますが、その基本は日常生活の中で日々のニュースに積極的に接することです。スマホを介したニュースへの接触に留まらず、新聞を読み、テレビのニュースを視聴し、興味を持った事柄についてはネットでも検索する。生活の中でそういう“クセ”を身に着けるようにしてください。						
授業方法	講義中心。 課題を提出し、そのフィードバックで講義を進めることもあります。						
評価基準と評価方法	課題40% 期末レポート40% 講義態度20%						
履修上の注意	後期の「マスメディア論B」も続けて履修することが望ましい						
教科書	特になし						
参考書	講義の時に適宜紹介します						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア論B／マスメディア論B						
担当教員	浮田 哲					科目ナンバ-	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー（特に映像リテラシー）						
授業の概要	様々な情報の中でも、映像情報は見る人に対する影響力が極めて大きい。また、映像情報はともすれば「映っているもの＝真実」と捉えられがちで、歴史を振り返ってみても映像による情報操作が行われた例がいくつもある。この授業は前期の「マスメディア論A」を発展させ、特に映像に特化した形でメディアリテラシーについて考察する。 また、ネット上の動画についても検証する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の成り立ちを考えながら番組を見ることができる ・編集やナレーションによって、印象が変わる具体例を説明できる ・一見自然な映像の“不自然さ”を指摘できる ・いわゆる「ヤラセ」の是非について自分の意見を持てる 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明 2. カット割りとは制作者の意図 3. ドキュメンタリーの手法と演出① 編集によるマジック 4. ドキュメンタリーの手法と演出② 音効による臨場感と劇的効果 5. ドキュメンタリーの手法と演出③ ナレーションによる誘導 6. ドキュメンタリーの手法と演出④ 無いシーンは作る 7. ドキュメンタリーの手法と演出⑤ 演出の範囲とは 8. 教科書「テレビの嘘を見破る」から① どこまで見破れますか 9. 教科書「テレビの嘘を見破る」から② ドキュメンタリーの歴史 10. 教科書「テレビの嘘を見破る」から③ 「戦ふ兵隊」を巡る問題 11. 教科書「テレビの嘘を見破る」から④ 再現と演出 12. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑤ NHK「ムスタン」を巡る問題 13. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑥ 制作者に求められるもの 14. ネット時代のメディアリテラシー 15. まとめとレポート提出 <p>※前半は私がかつて演出した「情熱大陸」などを視聴しつつ、映像の基本的な成り立ちを学びます ※後半は教科書を基に、さらに考察を深めます ※メディアを扱う科目なので、時々ニュースによって内容は適宜変更することがあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業では映像を扱います。映画やテレビ、ネット動画でも構わないので、気に入った映像作品はしっかりと見るように心がけて下さい。						
授業方法	講義が中心。実際の映像を見ることもあります。 課題を提出することもあります。						
評価基準と評価方法	課題40% 期末レポート40% 受講態度20%						
履修上の注意	前期の「マスメディア論A」を履修してなくても履修可能です						
教科書	「テレビの嘘を見破る」今野勉 新潮新書 ISBN-10: 4106100886 ISBN-13: 978-4106100888						
参考書	講義中に適宜紹介します。						